

2018 年春季年会

年会プログラム

於 千葉大学

2018 年 3 月 14 日 (水) ~ 3 月 17 日 (土)

日本天文学会

日本天文学会 2018 年春季年会プログラム

期 日 2018 年 3 月 14 日 (水) ～ 3 月 17 日 (土)

場 所 千葉大学西千葉キャンパス (千葉県千葉市)

電 話 090 - 4387 - 6893 <使用期間 2018 年 3 月 13 日 (火) ～ 3 月 17 日 (土) >

月日	会場	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	
3月13日 (火)								記者会見					
3月14日 (水)	A	受付			L. 太陽系 Z1. すばる PFS U. 宇宙論 N. 恒星 P2. 星・惑星 T. 銀河団 Y. 教育・他 R. 銀河 S. 活動銀河核			特別セッション (安全保障と天文学)			天文教育 フォーラム		理事 会
	B												
	C												
	D												
	E												
	F												
	G												
	H												
	I												
	J												
3月15日 (木)	A	受付	W2. コンパクト天体	昼休み (代議員総会)	ポスター	W2/W1. コンパクト天体	会員全体 集会	受賞記念講演					
	B		Z1. すばる PFS			Z1. すばる PFS							
	C		U. 宇宙論			Q. 星間現象							
	D		N. 恒星			P3. 星・惑星							
	E		P2. 星・惑星			P1. 星・惑星							
	F		T. 銀河団			V3. 観測機器							
	G		Y.教育・他/V1.観測機器			V1. 観測機器							
	H		R. 銀河			V2. 観測機器							
	I		S. 活動銀河核			S.活動銀河核/M.太陽							
	J		X. 銀河形成			X. 銀河形成							
3月16日 (金)	A	受付	W1. コンパクト天体	昼休み	ポスター	W1. コンパクト天体	特別セッション (連星中性子星合体 GW170817)	懇親会					
	B		Z2. マゼラン雲			Z2. マゼラン雲							
	C		Q. 星間現象			Q. 星間現象							
	D		P3. 星・惑星			K. 超新星爆発							
	E		P1. 星・惑星			P1. 星・惑星							
	F		V3. 観測機器			V3. 観測機器							
	G		V1. 観測機器			V1. 観測機器							
	H		V2. 観測機器			V2. 観測機器							
	I		M. 太陽			M. 太陽							
	J		X. 銀河形成			X. 銀河形成							
3月17日 (土)	A	受付	W1. コンパクト天体	ポスター	昼休み	ジュニアセッション							
	B												
	C		Q. 星間現象										
	D		K. 超新星爆発										
	E		P1. 星・惑星										
	F		V3. 観測機器										
	G		V1. 観測機器										
	H		V2. 観測機器										
	I		M. 太陽										
	J												
3月18日 (日)								公開講演会					
		9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	

A会場 : 総合校舎 3号館 1F

B会場 : 総合校舎 3号館 1F

C会場 : 総合校舎 4号館 2F

D会場 : 総合校舎 4号館 3F

E会場 : 総合校舎 4号館 3F

F会場 : 総合校舎 4号館 4F

G会場 : 総合校舎 4号館 4F

H会場 : 総合校舎 4号館 5F

I会場 : 総合校舎 4号館 5F

J会場 : 総合校舎 2号館 1F

受付 : 総合校舎 4号館 1F

ポスター会場 : 第一体育館

展示コーナー : 第一体育館

会議室 : 理学部 2号館 2F

懇親会 : 大学会館 2F (生協)

◎講演数

講演数：合計 632

(口頭講演 (a)：459、ポスター講演 (b)：132、ポスター講演 (c)：41)

◎参加登録について (参加者は、当日必ず参加登録をしてください。)

2011年秋季年会より、講演登録費は、講演申込時にお支払いいただく事になっています。

2016年秋季年会より、通常セッションにおける講演は会員に限られています。

○参加費用

	会 員	非会員
参 加 費	3,000 円 (不課税)	5,000 円 (消費税込み)
	(但し講演ありの場合、参加費は無料)	
講 演 登 録 費	3,000 円 (不課税)	10,000 円 (1 講演につき)
	(但し事前支払がない場合は、会員 4,000 円、会員 11,000 円)	
年 会 予 稿 集	2,000 円 (消費税込み)	2,000 円 (消費税込み) (購入希望者のみ)

○参加登録受付場所：受付

○参加登録受付時間：3月14日 11:00～16:00

3月15日 09:00～16:00

3月16日 09:00～16:00

3月17日 09:00～13:30

※参加費は、会期中に受付にて忘れずにご納付ください。

※参加費用支払い時に渡される領収書は、再発行はできませんので、大切に保管してください。

※講演登録者は、講演申し込み後にキャンセル等しても、講演登録費の返金はいたしません。

※懇親会に参加される方は、隣の懇親会専用の受付にて懇親会の参加費をお支払いください。

◎講演に関する注意

1. 口頭発表は10会場で並行して行います。口頭講演(添字 a)は、口頭発表9分、質疑応答3分です。ポスター講演(添字 b)は、口頭発表3分、3講演で12分を割り当て、座長の判断で質疑応答を行います。

※時間厳守：講演制限時間を超過した場合は、直ちに降壇していただきますので、講演者の皆様は制限時間を厳守できるよう特に万全の準備をお願いします。

2. ポスター発表(添字 b)、(添字 c)は、3月14日の12:00から3月17日の13:00までポスター会場の指定された場所に掲示できます。終了後は速やかに撤去してください。ポスターサイズは縦180cm×横90cmです。
3. 講演には液晶プロジェクターをご使用ください。液晶プロジェクターは、セッション開始前にPCの接続を確認してください。講演時間は、直前の講演者が降壇した時点から計り始めます。迅速に講演が始められるよう、次の講演者は前の講演中にPCを接続しておいてください。

◎会期中の行事

月日	時間	会場	行事名
3月13日 (火)	14:00～16:30	千葉県庁	記者会見
3月14日 (水)	15:15～17:15	J会場	安全保障と天文学 特別セッション
	17:30～19:00	J会場	天文教育フォーラム
3月15日 (木)	15:45～17:15	J会場	会員全体集会
	17:15～18:45	J会場	受賞記念講演
3月16日 (金)	15:45～17:45	J会場	連星中性子星合体 GW170817 特別セッション
	18:00～20:00	千葉大学生協フードコート	懇親会
3月18日 (日)	13:00～15:10	千葉市科学館	公開講演会

◎会合一覧表

月日	時間	会場	会合名	参加可否 [※]
3月14日 (水)	19:10～20:00	会議室	理事会	D
3月15日 (木)	11:30～12:30	A会場	理論天文学宇宙物理学懇談会報告会	C
	11:30～12:30	B会場	すばる PFS プロジェクトに関する意見交換会	B
	11:30～12:30	C会場	代議員総会	D
	11:30～12:30	G会場	宇宙電波懇談会総会	C
	11:30～12:30	I会場	太陽研究者連絡会・運営委員会	D
3月16日 (金)	11:30～12:30	A会場	天文・天体物理若手の会総会	C
	11:30～12:30	D会場	SKA-Japan 会合	A
	11:30～12:30	F会場	高エネルギー宇宙物理連絡会報告会	B
	11:30～12:30	H会場	光学赤外線天文連絡会総会	C
	11:30～12:30	I会場	太陽研究者連絡会・報告会	C
3月17日 (土)	12:30～13:30	C会場	国際大型将来衛星計画の検討リサーチグループ	B

※年会参加者の参加可否の説明（オープン化の程度）

- A: 年会参加者なら誰でも大歓迎で是非来てほしい
- B: 年会参加者で興味を持った人には広く門戸を開いている
- C: 関係グループ向けの会合だが年会参加者なら特に拒みはしない
- D: 関係者のみにクローズした会合で非公開である

◎特別セッション：「安全保障と天文学」

日 時：2018年3月14日（水）15：15～17：15

場 所：J会場

概 要：科学の成果は社会的に正と負の二つの帰結を併せ持ちます。したがって科学者はその社会的責任を負うことを前提として、研究の自由を保障されているのです。しかし、過度の競争と短期的に目立つ成果が求められる昨今、科学と社会のかかわりについて積極的に考えるという姿勢が次第に失われています。日本学術会議は2017年3月24日に「軍事的安全保障研究について」と題した声明を発表しました。これは、基礎研究と軍事研究との関係という問題を再提起し、個々の科学者、各研究機関、各分野の学協会、そして科学者コミュニティが社会とともに真摯な議論を続けることを求めています。日本天文学会は、この声明をもとに、会員の皆さんとともにこの問題を考える取り組みとして、天文月報「安全保障と天文学シリーズ」の連載を開始しました。本特別セッションでは、この問題の背景を共有し、若手の意見も集約し、全体討論を行う予定です。

*プログラム

1. セッション趣旨説明
柴田 一成（日本天文学会会長）
2. 学術研究と安全保障を巡る議論の背景
須藤 靖（日本学術会議連携会員（前会員））
3. コミュニティーの意見
海部 宣男（日本学術会議連携会員、元第3部（理学・工学）部長）
中野 不二男（京都大学宇宙総合学研究所ユニット特任教授）
天文・天体物理若手の会会員
4. 総合討論
5. 挨拶
山崎 典子（日本学術会議会員）

世 話 人：柴田一成（京都大学）、須藤靖（東京大学）、梶田隆章（東京大学）、山崎典子（ISAS/JAXA）、野津湧太（京都大学）、林左絵子（国立天文台）、土居守（東京大学）、伊王野大介（国立天文台）、山下卓也（国立天文台）

主 催：公益社団法人 日本天文学会

共 催：日本学術会議

◎天文教育フォーラム：「教養と天文学」

日 時：2018年3月14日（水）17：30～19：00

場 所：J会場

概 要：天文学は世界最古の学問の一つであり、古くからリベラルアーツの一科目にも数えられてきました。そして、現代でも多くの大学で教養科目として天文学の講義が開講されており、学生の教養教育に寄与しています。また一般教育・生涯教育の現場でも、天文学は非常に人気の高いコンテンツとなっています。長きにわたり、学問のみならず市民の生活、知的好奇心と深い関わりを持ってきた天文学ですが、現代においては天文学はどのような形で市民の教養に関わっているのでしょうか。そして、実際に天文教養教育はどのように行われているのでしょうか。

教養教育の在り方については天文学コミュニティ内でも様々な意見があることかと思いますが、教養教育に関しての共通の現状認識の形成や、意見交換の場は多くなかったように思われます。そこで本フォーラムでは、天文学が市民の教養を高める一助となるべく、日本の大学や社会教育の現場における教養教育、特に天文学に関する教養教育に関し議論したいと思えます。

話題提供（敬称略）：長島雅裕（文教大学） 「現代の教養教育に天文学はいかに貢献すべきか」
高梨直紘（東京大学） 「非専門家向けの天文教育をデザインする」
鴈野重之（九州産業大学） 「大学における教養科目としての天文学」

費 用：天文教育フォーラムのみの参加費は不要です。天文学会年会受付で、その旨お伝えください。

実行委員：中串孝志、亀谷和久、宮野彩、鴈野重之、富田晃彦、木村かおる

主 催：公益社団法人 日本天文学会 / 天文教育普及研究会

◎特別セッション：「連星中性子星合体 GW170817」

日 時：2018年3月16日（金）15：45～17：45

場 所：J会場

概 要：2017年8月17日（世界時）にアメリカとヨーロッパの重力波望遠鏡 LIGO、Virgo によって、連星中性子星合体による重力波イベントが初めて検出されました。後に「GW170817」と名付けられたこのイベントは、約40Mpcの距離で起こった1.2 - 1.6太陽質量の中性子星同士の合体でした。特筆すべきことは、このイベントに対して、Fermiガンマ線衛星によるガンマ線検出を皮切りに、光赤外線、X線、電波と、あらゆる波長域で電磁波対応天体が検出されたことです。ここに、マルチメッセンジャー天文学の新時代が始まったのです。GW170817は、史上初めての中性子星合体による重力波の検出という意味だけでなく、連星中性子星合体とショートガンマ線バーストの関連を示す初めての詳細な観測であり、また、重元素合成におけるrプロセスの現場として有力視されているマクロノバ（キロノバ）現象の初めての観測的確認でもあるという意味で、天文学史上きわめて重要なイベントとなりました。本特別セッションでは、この歴史的なイベントにつき、重力波観測、電磁波観測、理論の面からその正体に迫り、その科学的意義を考えたいと思います。

*プログラム

- | | |
|----------------------------|-----------------|
| 1. 「はじめに—GW170817とは何だったか—」 | 吉田道利（国立天文台） |
| 2. 「重力波観測でわかる連星合体の姿」 | 神田展行（大阪市立大学） |
| 3. 「電磁波観測による重力波対応現象の追跡」 | 内海洋輔（スタンフォード大学） |
| 4. 「コンパクト連星合体からの電磁波現象の理論」 | 井岡邦仁（京都大学） |

世 話 人：吉田道利（国立天文台）、田中雅臣（国立天文台）、中村卓史（京都大学）、河合誠之（東京工業大学）、神田展行（大阪市立大学）

正会員展示

◎ 宇宙科学データアーカイブ DARTS

日 時：天文学会期間内

場 所：体育館

概 要：宇宙航空研究開発機構では宇宙科学データのアーカイブサイト DARTS を運営しています。DARTS は天文学、太陽物理学のみならず、月惑星科学、太陽地球物理学や微小重力科学などの多岐にわたる分野の宇宙科学データを公開しています。天文学ではX線天文衛星「ぎんが」、「あすか」、「すざく」、「ひとみ」、赤外線天文衛星「IRTS」、「あかり」、電波天文衛星「はるか」、太陽物理学では太陽観測衛星「ようこう」、「ひので」のデータがあります。それぞれのデータについて、長期保管とその有効利用を目的として、データのみならずドキュメント・解析プログラムなどの整備も進めており、時代が経過しても過去のデータの解析ができるように配慮しています。

また、目的のデータを見つけやすくする検索システムやクイックルック（早見）アプリケーションを公開しています。これらのアプリケーションは、研究利用を念頭としていますが、大学学部レベルの教育や高校教育、初等教育へも応用されています。

本展示では、DARTSの紹介、ウェブサイトやアプリケーションのデモンストレーションを行い、最新のDARTSを見ていただくとともに、皆様のご意見やご要望などのフィードバックを伺いたいと考えております。DARTSをご存知の方も知らなかった方も、以前使っていた方も今使っている方も、ぜひ本ブースへいらしてください。

世 話 人：海老沢研 (JAXA/ISAS) ebisawa.ken@jaxa.jp
菅原泰晴 (JAXA/ISAS) sugawara.yasuharu@jaxa.jp
殿岡英顕 (JAXA/ISAS) tonooka.hideaki@jaxa.jp

◎日本天文学会公開講演会

日 時：2018年3月18日(日) 13:00～15:10(予定)(開場 12:40)
 場 所：千葉市科学館 (JR 千葉駅から徒歩 15 分、京成千葉中央駅から徒歩 6 分)
 対 象：中学生以上・一般向け
 テー マ：「極限環境での最先端天文学」

南米チリの標高 5000 m のアタカマ高地、そして南極という極限環境を生かして宇宙を探る研究が盛んに行われています。今回の公開講演会では、そのような研究の中から、千葉大学との関わりの深い、二つの最新の研究内容をわかりやすく紹介して頂きます。

講師・タイトル：下記をご参照ください。

参加費：無料(事前申し込み不要)

定 員：180 名(先着順)

<講演内容の紹介>

講演 1：「アンデスの巨大望遠鏡アルマで挑む暗黒の宇宙」

講師：阪本 成一(自然科学研究機構国立天文台チリ観測所教授/チリ観測所 所長)

A LMA (アルマ) は、南米・チリの標高 5000 m のアタカマ高地にある巨大電波望遠鏡です。66 台のパラボラアンテナを組み合わせ、宇宙からの電波を高感度で受信するとともに、ハッブル宇宙望遠鏡の最大 10 倍に相当する解像度を実現することができます。日本を中心とする東アジアと北アメリカ、ヨーロッパ諸国などの国際共同プロジェクトとして建設・運用されており、2013 年の本格運用開始以来、銀河や星・惑星系の形成の現場などを、従来にない解像度で描き出してきました。講演では、アルマの現状や最新の観測成果について紹介します。

講演 2：「南極点からニュートリノで探る極限高エネルギー宇宙」

講師：吉田 滋(千葉大学大学院理学研究院教授/ハドロン宇宙国際研究センター センター長)

南極点から広大な宇宙を探索するプロジェクトが IceCube(アイスキューブ)です。遠方の宇宙から、激烈な宇宙の姿を伝えるメッセンジャーである「ニュートリノ」を捉え、宇宙からの高エネルギー放射メカニズムを探っています。南極点直下の広大な深氷河に特殊な検出器を 5160 基埋設し、誰も見たことのなかった宇宙ニュートリノ信号を測定してるのです。世界 12 カ国の約 300 人の研究者で運営しているこの巨大観測所では 2013 年の宇宙ニュートリノ発見を始めとする多くの成果が日本グループによってもたらされています。本講演では、アイスキューブ実験の全貌と、観測データから何がわかり何が謎として提示されているのかを解説します。

プログラム、アクセスにつきましては開催地大学 HP をご覧ください。

主 催：公益社団法人 日本天文学会

共 催：千葉市科学館、千葉大学

企 画：千葉大学大学院理学研究院物理学研究部門宇宙物理学研究室

◎進路相談コーナー

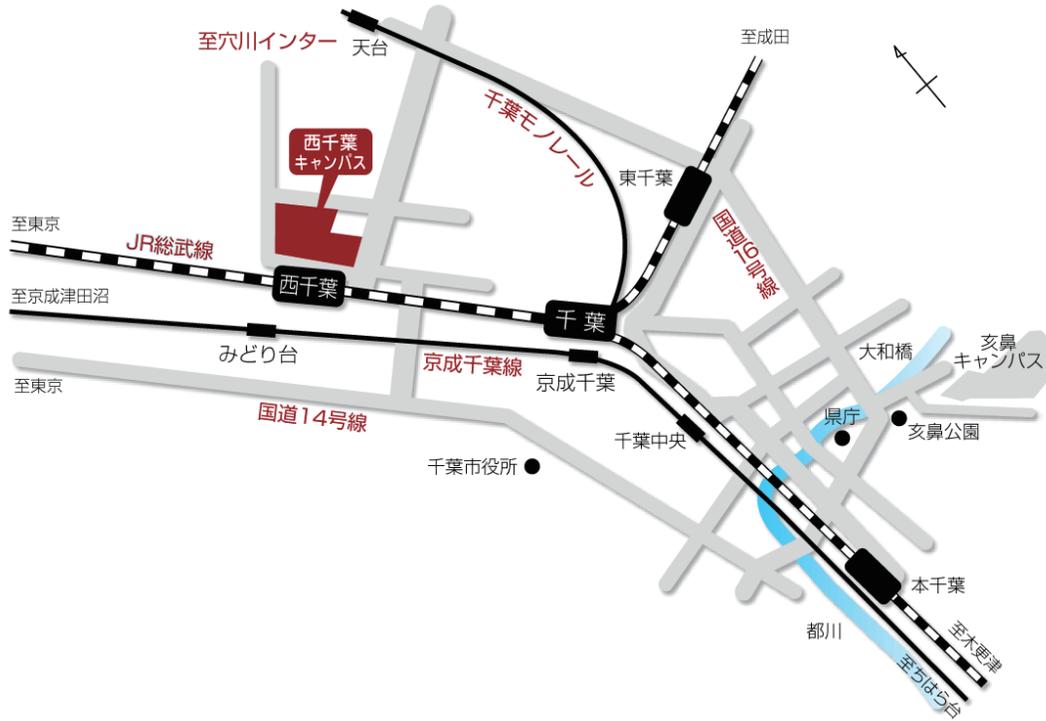
日 時：2018年3月15日(木)、2018年3月16日(金) 11:30～13:30

場 所：総合校舎 4 号館 2F

概 要：大学院生及びポスドク研究員のみなさん、日々研究を進めるなかで将来について迷いや相談したいことはありませんか。キャリア支援委員会ではそのような皆さんの進路選択の一助になればと、進路相談コーナーをまた開催します。相談役には、ポスドクの方と、大学や研究所などのいわゆるアカデミックポジション以外の道を選び、天文学とその周辺分野で学んだことを活かして社会のさまざまな場で活躍する先輩方を中心にお招きする予定です。お昼ご飯を持ち込んでの相談も可です。ぜひ足を運んでみませんか? もちろん相談内容に関する個人情報や秘密は厳守されます。なお、アドバイザーの出身分野や現在の仕事の内容については、決まり次第 Tennet にて案内します(当日、会場でもご案内します)。

主 催：日本天文学会キャリア支援委員会

千葉大学へのアクセス

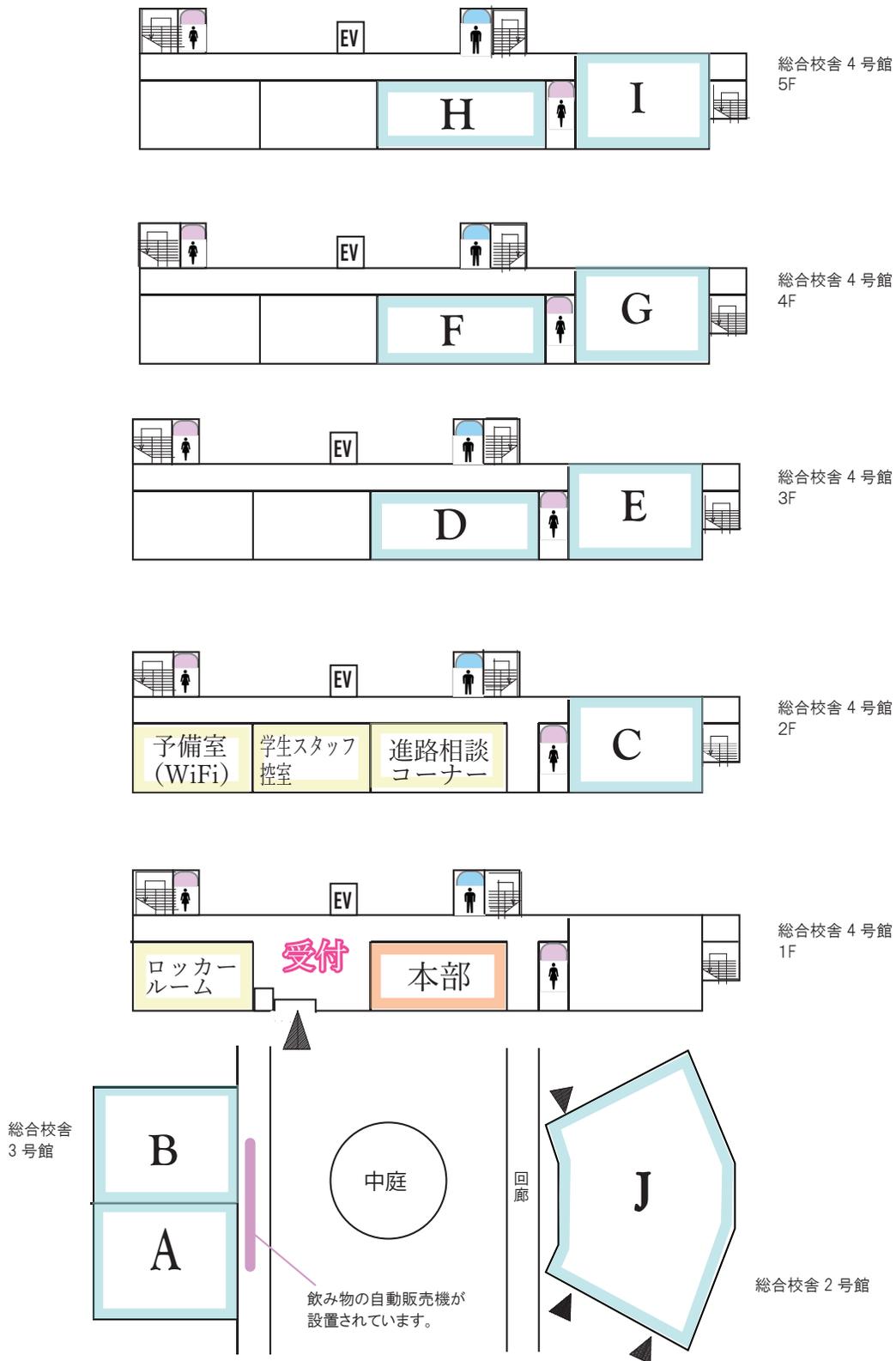


JR 東京	35分 8 駅 総武線 (快速)	JR 稲毛	3 分 1 駅 総武線 (各駅停車)	JR 西千葉				
京成上野	35分 6 駅 京成線特急	京成津田沼	11分 5 駅 京成千葉線	京成みどり台				
羽田空港	16分 1 駅 京浜急行線エアポート快特	JR 品川	45分 10 駅 総武線 (快速)	JR 稲毛	3 分 1 駅 総武線 (各駅停車)	JR 西千葉		
羽田空港	17分 1 駅 東京モノレール空港快速	JR 浜松町	6 分 3 駅 山手線	JR 東京	35分 8 駅 総武線 (快速)	JR 稲毛	3 分 1 駅 総武線 (各駅停車)	JR 西千葉
成田空港	42分 8 駅 総武線 (快速)	JR 千葉	3 分 1 駅 総武線 (各駅停車)	JR 西千葉				

千葉大学 西千葉キャンパスマップ



会場案内図



口頭セッション 3月14日(水)

	A会場	B会場	C会場	D会場	E会場	F会場	G会場	H会場	I会場	J会場
開始時刻	【太陽系】	【すばるPFS】	【宇宙論】	【恒星】	【星・惑星】	【銀河団】	【教育・他】	【銀河】	【活動銀河核】	-
13:00	L01a	Z101r と Z107a	U01a	N01a	P201a	T01a	Y01a	R01a	S01a	-
13:12	L02a		U02a	N02a	P202a	T02a	Y02a	R02a	S02a	-
13:24	L03a		U03a	N03a	P203a	T03a	Y03a	R03a	S03a	-
13:36	L05a		U04a	N04a	P204a	T04a	Y04a	R04a	S04a	-
13:48	L06a		U05a	N05a	P205a	T06a	Y05a	R05b R06b R07b	S05a	-
14:00	L07a		U07a	N06a	P206a	T07a	Y06a	R08a	S06a	-
14:12	L08a		U08a	N07a	P207a	T08a	Y07a	R09a	S07a	-
14:24	L09a		U09a	N08a	P208a	T09a	Y08b Y11b Y12b	R10a	S08a	-
14:36	L10a		U10a	N09a	P209a	T10b	Y13b Y14b Y15b	R11a	S09b S10b S11b	-
14:48	L11b L12b L13b		U11a	N10a	P210a	-	Y16b Y17b Y19b	R12b R13b R14b	S12b S13b S14b	-
15:00	-	-	-	N11b N12b	-	-	-	-	-	-
15:15	安全保障と天文学 特別セッション (J会場)									
17:30	天文教育フォーラム (J会場)									
19:10	理事会									

口頭セッション 3月15日(木)

	A会場	B会場	C会場	D会場	E会場	F会場	G会場	H会場	I会場	J会場
開始時刻	【コンパクト天体】	【すばるPFS】	【宇宙論】	【恒星】	【星・惑星】	【銀河団】	【教育・他/観測機器】	【銀河】	【活動銀河核】	【銀河形成】
09:30	W201a	Z108r ? Z113a	U12a	N13a	P211a	T11a	Y20a	R17a	S15a	X01a
09:42	W202a		U13a	N14a	P212a	T12a	Y21a	R18a	S16a	X02a
09:54	W203a		U14a	N15a	P213a	T13a	Y22a	R19a	S17a	X03a
10:06	W204a		U15b	N16a	P214a	T14a	V101a	R20a	S18a	X04a
10:18	W205b W206b W207b		-	N17a	P215a	T15a	V102a	R21a	S19a	X05a
10:30	W208a		-	N19a	P216a	-	V103a	R22a	S20a	X06a
10:42	W209a		-	N21a	P217a	-	V104a	R23a	S21a	X07a
10:54	W210a		-	N22a	P218b P219b P220b	-	V105a	R24a	S22a	X08a
11:06	W211a		-	N23a	-	-	V106b V107b V108b	R25b R26b	S23a	X09a
11:18	W212b		-	N24b N25b	-	-	V109b V110b V111b	-	S24a	X10b X11b X12b
11:30	昼休み(代議員総会)(C会場)									
12:30	ポスター									
開始時刻	【コンパクト天体】	【すばるPFS】	【星間現象】	【星・惑星】	【星・惑星】	【観測機器】	【観測機器】	【観測機器】	【活動銀河核/太陽】	【銀河形成】
13:30	W213a	Z114r ? Z119a	Q01a	P301a	P101a	V301b V302b V303b	V115a	V201a	S25a	X13a
13:42	W214a		Q02a	P302a	P103a	V304a	V116a	V202a	S26a	X14a
13:54	W101a		Q03a	P303a	P104b P105b P106b	V305a	V117a	V203b V204b V205b	S27a	X15a
14:06	W102a		Q04a	P304b P305b P306b	P107b P109b P110b	V306a	V118b V119b V120b	V206a	S28a	X16a
14:18	W103a		Q05a	P307b P308b P309b	P111a	V307a	V121b V122b V123b	V207a	S29a	X17a
14:30	W104a		Q06a	P310a	P112a	V308a	V124b V125b V126b	V208a	S30a	X18a
14:42	W105a		Q07a	P311a	P113a	V309b V310b V311b	V127b V128b V129b	V209b V210b V211b	M01a	X19a
14:54	W106a		Q08a	P312a	P114a	V312a	V130b V131b	V212b V213b V214b	M02a	X20b X21b X22b
15:06	W107a		Q09a	P313a	P115a	V313a	V134a	V215b V216b V217b	M03a	X23b X24b X25b
15:18	W109b W110b W111b		-	Q10a	P314a	P116a	V314b V315b V316b	V135a	V218b V219b	M04a
15:45	会員全体集会(J会場)									
17:15	受賞記念講演(J会場)									

口頭セッション 3月16日(金)

	A会場	B会場	C会場	D会場	E会場	F会場	G会場	H会場	I会場	J会場
開始時刻	【コンパクト天体】	【マゼラン雲】	【星間現象】	【星・惑星】	【星・惑星】	【観測機器】	【観測機器】	【観測機器】	【太陽】	【銀河形成】
9:30	W113a	Z201r ? Z208a	Q12a	P315a	P117a	V317a	V136a	V221a	M05a	X31a
9:42	W114a		Q13a	P316a	P118a	V318a	V137a	V222a	M06a	X32a
9:54	W115a		Q14a	P317a	P119a	V319a	V138a	V223a	M07a	X33a
10:06	W116a		Q15a	P318a	P120a	V320a	V139a	V224a	M08a	X34a
10:18	W117a		Q16b Q17b Q18b	P319a	P121a	V321b V322b	V140a	V225a	M09a	X35a
10:30	W118a		Q19a	-	P122a	V323a	V141a	V226a	M10a	X36a
10:42	W119a		Q20a	-	P123b P124b P125b	V324a	V142a	V227a	M11a	X37a
10:54	W120a		Q21a	-	P126b P127b P128b	V325a	V143a	V228a	M12a	X38a
11:06	W121b W122b W123b		Q22a	-	P129b	V326a	V144a	V229a	M13b M14b M15b	X39a
11:18	W124b W125b W126b		Q23a	-	-	V327a	V145a	V230a	M21b	X40a
11:30	昼休み									
12:30	ポスター									
開始時刻	【コンパクト天体】	【マゼラン雲】	【星間現象】	【超新星爆発】	【星・惑星】	【観測機器】	【観測機器】	【観測機器】	【太陽】	【銀河形成】
13:30	W128a	Z209r ? Z217a	Q24a	K01a	P130a	V328a	V146a	V231a	M22a	X41a
13:42	W129a		Q25a	K02a	P131a	V329a	V147a	V232a	M23a	X42a
13:54	W130a		Q26a	K03a	P132a	V330a	V148a	V233a	M24a	X43a
14:06	W131a		Q27a	K04a	P133a	V331a	V149a	V234a	M25a	X44a
14:18	W132a		Q28a	K05a	P134a	V332a	V150a	V235a	M26a	X45a
14:30	W133a		Q29a	K06a	P135a	V333a	V151a	V236a	M27a	X46a
14:42	W134a		Q30a	K07a	P136a	V334a	V152a	V237a	M28a	X47a
14:54	W135a		Q31a	K08a	P137a	V335a	V153a	V238a	M29a	X48a
15:06	W136a		Q32a	K09a	-	V336a	-	V239a	M30a	X49a
15:18	W137a		Q33a	K10a	-	-	-	V240a	M31a	-
15:45	連星中性子星合体 GW170817 特別セッション (J会場)									
18:00	懇親会 (千葉大学生協フードコート)									

口頭セッション 3月17日(土)

	A会場	B会場	C会場	D会場	E会場	F会場	G会場	H会場	I会場	J会場
開始時刻	【コンパクト天体】		【星間現象】	【超新星爆発】	【星・惑星】	【観測機器】	【観測機器】	【観測機器】	【太陽】	
9:30	W138a	-	Q34a	K11a	P138a	V337a	V154a	V241a	M32a	-
9:42	W139a	-	Q35a	K12a	P139a	V338a	V155a	V242a	M33a	-
9:54	W140a	-	Q36a	K13a	P140a	V340a	V156a	V243a	M34a	-
10:06	W142a	-	Q37a	K14a	P141a	V341a	V157a	V244a	M35a	-
10:18	W143a	-	Q38a	K17a	P142a	V342a	V158a	-	M36a	-
10:30	W144a	-	Q39a	K18a	P143a	V343a	V159a	-	M37a	-
10:42	W145a	-	Q40a	K19a	P144a	V344a	V160a	-	M38a	-
10:54	W146a	-	Q42a	K20a	-	-	V161a	-	M39a	-
11:06	-	-	Q43a	-	-	-	-	-	M40a	-
11:18	-	-	-	-	-	-	-	-	M41a	-
11:30	ポスター									
12:30	昼休み									

ポスターセッション 3月14日(水) ~ 3月17日(土)

<p>【K. 超新星爆発】(2)</p> <p>K15c K16c</p>	<p>【R. 銀河】(12)</p> <p>R05b R06b R07b R12b R13b</p> <p>R14b R15c R16c R25b R26b</p> <p>R27c R28c</p>
<p>【L. 太陽系】(5)</p> <p>L04c L11b L12b L13b L14c</p>	<p>【S. 活動銀河核】(6)</p> <p>S09b S10b S11b S12b S13b</p> <p>S14b</p>
<p>【M. 太陽】(9)</p> <p>M13b M14b M15b M16c M17c</p> <p>M18c M19c M20c M21b</p>	<p>【T. 銀河団】(2)</p> <p>T05c T10b</p>
<p>【N. 恒星】(6)</p> <p>N11b N12b N18c N20c N24b</p> <p>N25b</p>	<p>【U. 宇宙論】(3)</p> <p>U06c U15b U16c</p>
<p>【P1. 星・惑星】(15)</p> <p>P102c P104b P105b P106b P107b</p> <p>P108c P109b P110b P123b P124b</p> <p>P125b P126b P127b P128b P129b</p>	<p>【V1. 観測機器】(25)</p> <p>V106b V107b V108b V109b V110b</p> <p>V111b V112c V113c V114c V118b</p> <p>V119b V120b V121b V122b V123b</p> <p>V124b V125b V126b V127b V128b</p> <p>V129b V130b V131b V132c V133c</p>
<p>【P2. 星・惑星】(3)</p> <p>P218b P219b P220b</p>	<p>【V2. 観測機器】(15)</p> <p>V203b V204b V205b V209b V210b</p> <p>V211b V212b V213b V214b V215b</p> <p>V216b V217b V218b V219b V220c</p>
<p>【P3. 星・惑星】(7)</p> <p>P304b P305b P306b P307b P308b</p> <p>P309b P320c</p>	
<p>【Q. 星間現象】(5)</p> <p>Q11c Q16b Q17b Q18b Q41c</p>	

ポスターセッション 3月14日(水) ~ 3月17日(土)**【V3. 観測機器】(12)**

V301b V302b V303b V309b V310b
V311b V314b V315b V316b V321b
V322b V339c

【W1. コンパクト天体】(13)

W108c W109b W110b W111b W112c
W121b W122b W123b W124b W125b
W126b W127c W141c

【W2. コンパクト天体】(4)

W205b W206b W207b W212b

【X. 銀河形成】(14)

X10b X11b X12b X20b X21b
X22b X23b X24b X25b X26b
X27c X28c X29c X30c

【Y. 教育・他】(12)

Y08b Y09c Y10c Y11b Y12b
Y13b Y14b Y15b Y16b Y17b
Y18c Y19b

【Z2. マゼラン雲】(3)

Z213b Z214b Z215b

Z1. すばる超広視野多天体分光器PFSは何を明らかにするのか？

3月14日(水) 午後・B会場		10:54	Z112a PFS AGN survey: science cases and observing strategy Yoshiki Matsuoka (Ehime University)
13:00	Z101r PFS で挑むサイエンス 村山 斉 (UC Berkeley/ 東京大学)	11:06	Z113a HI Tomographic survey in the SSA22 field (SSA22-HIT) (I): Overview and initial results 馬渡 健 (大阪産業大学)
13:24	Z102r PFS プロジェクト概要と装置開発進捗状況まとめ 2018 田村直之 (東京大学)	3月15日(木) 午後・B会場	
14:00	Z103a PFS 予想される装置性能 矢部清人 (東京大学)	13:30	Z114r ハワイ観測所からの PFS への期待 吉田道利 (国立天文台)
14:12	Z104a Proto-type Server of Science Database for HSC + PFS 峯尾聡吾 (国立天文台)	14:06	Z115a すばる PFS が拓く近傍宇宙論と銀河暗黒物質の正体の解明 千葉 柁司 (東北大学)
14:24	Z105a すばる PFS が拓く宇宙論: ダークエネルギー、ニュートリノ質量、重力理論 高田昌広 (東京大学)	14:30	Z116a PFS による銀河系外部ハローの元素組成分布の解明 石垣美歩 (東京大学)
14:36	Z106a PFS に向けた大規模シミュレーション群と機械学習を用いた精密理論予言 西道啓博 (東京大学)	14:42	Z117a PFS による銀河系内に生き残った初代星の探査 石山智明 (千葉大学)
14:48	Z107a Splashback Radius of Non-spherical Dark Matter Halos from Cosmic Density and Velocity Fields Teppei Okumura (ASIAA)	14:54	Z118a すばる PFS による銀河系矮小銀河観測を用いた暗黒物質ハロー構造の精密測定 林航平 (国立天文台)
3月15日(木) 午前・B会場		15:06	Z119a 矮小楕円体銀河からのガンマ線を用いた暗黒物質間接検出の精密化 堀米俊一 (東京大学)
09:30	Z108r すばる PFS による銀河分光サーベイへの期待 太田耕司 (京都大学)		
10:06	Z109a PFS Galaxy Evolution Survey. I: Galaxy formation and evolution at $0.7 < z < 7$ with Subaru Prime Focus Spectrograph Silverman, John (The University of Tokyo)		
10:30	Z110a PFS Galaxy Evolution Survey. II: Opening New Windows of Galaxy Formation Study — Large-Scale Interplay between Galaxies and the IGM — 大内正己 (東京大学)		
10:42	Z111a PFS Galaxy Evolution Survey. III: Modeling for PFS using cosmological simulations: feedback, metals, and IGM Kentaro Nagamine (Osaka University)		

Z2. マゼラン雲で探る星・星間物質の進化

3月16日(金) 午前・B会場		3月16日(金) 午後・B会場	
09:30	Z201r 大小マゼラン雲におけるミリ波・サブミリ波観測の現状 大西利和(大阪府立大学)	13:30	Z209r マゼラン雲の観測で探る低金属量銀河の星間化学 下西隆(東北大学)
10:00	Z202a Tracing the evolution of GMCs in the LMC with CO (2-1) ALMA observations Sarolta Zahorecz (Osaka Prefecture University/NAOJ)	14:00	Z210a 近赤外撮像観測による LMC/30Dor 大質量星クラスターの性質調査 高橋英則(東京大学)
10:12	Z203a ALMA による大マゼラン雲の巨大分子雲 N159 の観測 I: 空間分解されたフィラメント分子雲と CO Pillar 徳田一起(大阪府立大学/国立天文台)	14:12	Z211a マゼラニックシステムにおける金属量の分布の探査 山本宏昭(名古屋大学)
10:24	Z204a ALMA による大マゼラン雲の巨大分子雲 N159 の観測 II: N159 W 領域のフィラメント衝突における大質量星形成 原田遼平(大阪府立大学)	14:24	Z212r X線・ガンマ線で見たマゼラン雲 - ideal laboratory か monster factory か? - 馬場彩(東京大学)
10:36	Z205r 星間媒質の動的進化 井上剛志(名古屋大学)	14:54	Z213b ALMA 望遠鏡による小マゼラン雲内の星形成初期段階領域 N83C の中性炭素原子観測 II 本間愛彩(大阪府立大学)
11:06	Z206a 分子雲衝突による大質量コア形成シミュレーション 島和宏(北海道大学)	14:57	Z214b 大マゼラン雲の超新星残骸に付随する分子雲の探査 佐野栄俊(名古屋大学)
11:18	Z207a 衝撃波圧縮を受けた低金属度ガス雲の熱進化と分裂片質量について 仲内大翼(東北大学)	15:00	Z215b 超新星残骸 N49 の衝撃波と中性星間ガスとの相互作用 山根悠望子(名古屋大学)
11:30	Z208a 大マゼラン雲における潮汐相互作用が誘発する大質量星形成 柘植紀節(名古屋大学)	15:06	Z216a ALMA による超新星残骸 N63A の CO 観測: 星間物質と衝撃波の相互作用に迫る 長屋拓郎(名古屋大学)
		15:18	Z217a ALMA/ATCA によるスーパーバブル 30 Doradus C に付随する星間ガスの観測 山根悠望子(名古屋大学)

K. 超新星爆発

3月16日(金) 午後・D会場		3月17日(土) 午前・D会場	
13:30	K01a HSC Transient Survey (I): Overview 安田直樹(東京大学)	09:30	K11a ボルツマン輻射輸送計算による回転星の超新星爆発 II 原田了(東京大学)
13:42	K02a HSC Transient Survey (IV): Type II supernova cosmology 前田啓一(京都大学)	09:42	K12a 重力崩壊型超新星の Boltzmann-Hydro Code によるニュートリノ輻射流体計算 岩上わかかな(京都大学/早稲田大学)
13:54	K03a HSC Transient Survey (V): High-redshift superluminous supernovae 守屋堯(国立天文台)	09:54	K13a カイラル電磁流体中でのダイナモとその重力崩壊型超新星爆発への影響 政田洋平(愛知教育大学)
14:06	K04a HSC Transient Survey (VI): Type IIP supernovae with faint host galaxies 山口正輝(東京大学)	10:06	K14a 重力崩壊型超新星コアにおける衝撃波の不安定性の線形解析 杉浦健一(早稲田大学)
14:18	K05a HSC Transient Survey (III): The diversity of early-phase Type Ia supernovae Ji-an Jiang(The University of Tokyo)	K15c 超新星ニュートリノの鉄コア回転率依存性 水口万結香(福岡大学)	
14:30	K06a 光赤外線大学間連携による IIP 型超新星 SN 2017eaw の追観測 山中雅之(広島大学)	K16c 自転を伴う超新星爆発からの重力波シグナルの系統的特徴 日永田琴音(福岡大学)	
14:42	K07a 極めて短いプラトーを持つ特異な超新星 SN 2017czd の測光分光観測 中岡竜也(広島大学)	10:18	K17a 非球対称な重力崩壊型超新星爆発放出物の平均化学組成 藤本信一郎(熊本高等専門学校)
14:54	K08a Ca-rich トランジェント iPTF15eqv の可視近赤外測光分光観測 河原直貴(広島大学)	10:30	K18a X線を用いた Kepler 超新星残骸中の Fe の非等方な膨張構造解析 春日知明(東京大学)
15:06	K09a 減光速度の大きな極超新星 SN 2014as の測光分光観測 大坪一輝(広島大学)	10:42	K19a 超新星残骸のX線観測で明らかにした非対称爆発と反跳中性子星 勝田哲(埼玉大学)
15:18	K10a 中心エンジン駆動超新星エジェクタからの非熱放射 鈴木昭宏(京都大学)	10:54	K20a 重力崩壊型超新星の長時間数値計算に基づく中性子星キック 中村航(福岡大学)

L. 太陽系

L. 太陽系

3月14日(水) 午後・A会場		L14c Based on the theory of relativity, the demonstration of the Titius-Bode law and the calculation of the Saturn ring orbits and the number of its rings Fumitaka Inuyama(ex-Kyudensangyo Inc.)
13:00	L01a 「黒点変動と太陽系天体位置との興味ある関係」から 藤原ケイ	
13:12	L02a 流星群の4次元予報計算 佐藤勲	
13:24	L03a 惑星大気 of 自発的スーパーローテーション 森川雅博(お茶の水女子大学)	
	L04c ALMA/「あかつき」衛星で探る金星の大気化学・ダイナミクスのリンク 青木亮輔(大阪府立大学)	
13:36	L05a 小惑星(3200) Phaethon の偏光撮像観測 新中善晴(国立天文台)	
13:48	L06a C型小惑星(74)Galatea の偏光観測 匠あさみ(放送大学/国立天文台)	
14:00	L07a パンスタース彗星(P/2016 BA14)の中間赤外線観測 大坪貴文(宇宙航空研究開発機構)	
14:12	L08a C/2012 S1 ISON 彗星の軌道の内側に伸びたダストテイルの解析 西田信幸(日本天文学会2017年度内地留学生)	
14:24	L09a すばる望遠鏡 Hyper Suprime-Cam による太陽系外縁天体のカラー測定 吉田二美(千葉工業大学/神戸大学)	
14:36	L10a すばる望遠鏡 Hyper Suprime-Cam によるケンタウルス族のカラー測定 佐久川遥(神戸大学)	
14:48	L11b HSC すばる戦略枠サーベイによる太陽系小天体の観測的研究 吉田二美(千葉工業大学/神戸大学)	
14:48	L12b 2018年10月流星群の4次元予報計算 佐藤勲	
14:48	L13b 岡部隕石の火球経路の再考察 佐藤幹哉(日本流星研究会)	

M. 太陽

3月15日(木) 午後・I会場		10:54	M12a	活動領域中の磁束キャンセレーションで発生する Ellerman bombs と衝撃波の時間発展 久保雅仁(国立天文台)
14:42	M01a			One-dimensional MHD simulations of Alfvén wave propagation in the chromosphere with realistic radiative cooling model Yikang Wang(The University of Tokyo)
14:54	M02a			減衰不安定とアルフベン乱流の相互作用 庄田宗人(東京大学)
15:06	M03a			日食時間帯の観測から確認した太陽極域上空でのコロナ輝線非熱幅の減少 原弘久(国立天文台)
15:18	M04a			皆既日食でとらえられた極域コロナでのジェット現象 花岡庸一郎(国立天文台)
3月16日(金) 午前・I会場				
09:30	M05a			高感度 EUV/UV 分光望遠鏡衛星(SOLAR-C_EUVST)の最新状況 清水敏文(宇宙航空研究開発機構)
09:42	M06a			Solar-C EUVST における熱的非平衡プラズマ診断能力及びその診断能力から期待される科学成果 今田晋亮(名古屋大学)
09:54	M07a			フィラメント消失前後の高度変化と磁場構造 海宝孝祐(茨城大学)
10:06	M08a			プロミネンス形成及び噴出の2次元磁気流体シミュレーション 金子岳史(名古屋大学)
10:18	M09a			撮像観測による太陽彩層微細構造の3次元速度場の解析 徳田怜実(京都大学)
10:30	M10a			Arch Filament System の大気構造とその時間発展 石川遼太郎(東北大学)
10:42	M11a			太陽観測衛星「ひので」を用いた光球磁束管形成過程の統計的研究 二宮翔太(京都大学)
		11:06	M13b	ひので SOT/SP モザイク観測による広視野高空間分解能ベクトル磁場観測および電流ヘリシティ測定 大辻賢一(京都大学)
		11:06	M14b	飛騨天文台 SMART/SDDI で観測された浮上磁場領域とアーチフィラメントシステム 町田亜希(京都大学)
		11:06	M15b	動的 Petschek リコネクションにおける Petschek 型領域形成メカニズム 柴山拓也(名古屋大学)
			M16c	Doppler velocity differences of ions and neutral atoms in a solar surge Huang Yuwei(Kyoto University)
			M17c	ケーデンス 1 秒以下を目指した太陽彩層の高速 2 次元分光観測 當村一朗(大阪府立大学工業高等専門学校)
			M18c	太陽フレアの impulsivity と白色光・CME との関係 II 渡邊恭子(防衛大学校)
			M19c	太陽フレアに伴う彩層における低温上昇流は形成可能か? 中村達希(京都大学)
			M20c	太陽フレア EUV 放射スペクトル予測モデルの構築 西本将平(防衛大学校)
		11:18	M21b	保存量に対して利用出来る音速抑制法の提案 飯島陽久(名古屋大学)

3月16日(金) 午後・I会場		3月17日(土) 午前・I会場	
13:30	M22a 彩層極域リムのALMA観測 横山央明(東京大学)	09:30	M32a Magnetic helicity flux in the solar active region photosphere Sung-Hong Park(Nagoya University)
13:42	M23a CLASPにより観測されたスピキュールに沿う波動の伝播 吉田正樹(総合研究大学院大学/国立天文台)	09:42	M33a コロナ質量放出を伴う太陽フレアを発生させる活動領域の条件について 水野雄太(名古屋大学)
13:54	M24a 「ひので」観測10年:黒点磁場強度ランキング 岡本文典(国立天文台)	09:54	M34a Study of the Critical Condition of Active Region Based on the Nonlinear Force-Free Field Analysis Johan Muhamad(Nagoya University)
14:06	M25a 太陽黒点と太陽型星の巨大黒点群の時間発展の比較 行方宏介(京都大学)	10:06	M35a 太陽フレア活動と磁場のねじれとの関係に関する統計解析 旭友希(名古屋大学)
14:18	M26a 1770年の東アジアにおける低緯度オーロラの記録の分析とその時の太陽 河村聡人(京都大学)	10:18	M36a Hydrodynamic Simulation of GOES Soft X-ray Light Curves: Relationship with the Time Scales of Magnetic Reconnection and Thermal Processes 鳥海森(国立天文台)
14:30	M27a 極磁場の形成過程における先行後行黒点非対称性の効果 飯島陽久(名古屋大学)	10:30	M37a Dynamics Processes of the Moreton Wave on 2014 March 29 Denis Pavel Cabezas(Kyoto University)
14:42	M28a 太陽表面磁極で見られる子午面還流の磁極パラメータ依存性の探査 飯田佑輔(関西学院大学)	10:42	M38a 三次元リコネクション領域における構造形成 柴山拓也(名古屋大学)
14:54	M29a 対流層の底から光球までを包括した三次元熱対流計算 堀田英之(千葉大学)	10:54	M39a Secondary tearing in three-dimensional reconnection Shuyang Wang(The University of Tokyo)
15:06	M30a 太陽対流速度問題における実効的プラントル数の効果 戸次有人(東京大学)	11:06	M40a 磁気リコネクションの高速化機構に関するMHDシミュレーション研究 與那覇公泰(名古屋大学)
15:18	M31a 磁場を模した粘性を用いた3次元熱対流計算 新井祥太(千葉大学)	11:18	M41a 太陽軟X線の光子計測型・2次元撮像分光観測計画の進捗報告 成影典之(国立天文台)

N. 恒星

3月14日(水) 午後・D会場		3月15日(木) 午前・D会場	
13:00	N01a Swift/XMM-Newton による Wolf-Rayet 連星系 WR 125 の X 線観測 菅原泰晴(宇宙航空研究開発機構)	09:30	N13a LAMOST/ すばるで発見されたリチウム過剰な金属欠乏星 青木和光(国立天文台)
13:12	N02a XMM-Newton 衛星で偶然検出された恒星フレアとその発生源 中村優美子(中央大学)	09:42	N14a M型矮星の化学組成決定に向けたすばる IRD スペクトルの解析 石川裕之(総合研究大学院大学/国立天文台)
13:24	N03a Strong magnetic field generated by the extreme red supergiant VY Canis Majoris Hiroko Shinnaga(Kagoshima University)	09:54	N15a G型巨星連星系カペラの化学組成解析 竹田洋一(国立天文台)
13:36	N04a G,K,M型星におけるスーパーフレアのエネルギーと継続時間の関係 前原裕之(国立天文台)	10:06	N16a Line-depth Ratios of Red Giants in APOGEE H-band Spectra: the Metallicity Effect Mingjie Jian(The University of Tokyo)
13:48	N05a 適応的交換モンテカルロ法で探るスーパーフレア星の巨大黒点の寿命と面積 幾田佳(京都大学)	10:18	N17a 銀河面サーベイ画像から発見された変光星候補天体 藤原智子(日本スペースガード協会)
14:00	N06a TESS で観測される明るい太陽型スーパーフレア星候補の高分散分光観測 野津湧太(京都大学)	N18c 可視、近赤外波長での赤色巨星の LSP 変光現象 高山正輝(兵庫県立大学)	
14:12	N07a CEMP 星の起源は炭素過剰な初代超新星なのか? 小宮悠(東京大学)	10:30	N19a 大マゼラン雲の星団を用いたレッドクランプ星の近赤外線等級の金属量・年齢依存性の調査(2) 小野里宏樹(東北大学)
14:24	N08a s-過程核種合成と炭素過剰金属欠乏(CEMP)星の Ba と Eu の起源(2) 山田志真子(北海道大学)	N20c すばる Hyper Suprime-Cam による褐色矮星の探査 長嶋優佳(愛媛大学)	
14:36	N09a 銀河系ハローにおける超金属欠乏炭素過剰星の起源と星・連星系形成史 藤本正行(北海学園大学)	10:42	N21a 星震学による恒星の内部構造の逆問題 八田良樹(総合研究大学院大学/国立天文台)
14:48	N10a 大質量星連星における超新星爆発は金属欠乏星のリチウム減少を説明できるか?(2) 須田拓馬(東京大学)	10:54	N22a 乱流圧を考慮した恒星モデルの振動数計算について 園井崇文(東北大学)
15:00	N11b Optical and NIR Polarimetric Monitoring of AA Tau in 2014-2017 Wei Liu(Hiroshima University)	11:06	N23a 熱パルス AGB 星の表面磁場と星風 保田悠紀(北海道大学)
15:00	N12b 磁極反転を記述する3次元マクロスピン・モデル 中道晶香(京都産業大学)	11:18	N24b VERA による SiO メーザーを用いた周期の長い OH/IR 星の位置天文 VLBI 観測 中川亜紀治(鹿児島大学)

P1. 星・惑星形成

11:18	<p>N25b VERAを用いた原始惑星状星雲 OH231.8+4.2の距離決定と星周ガス運 動の評価 大山まど薫(鹿児島大学)</p>	<p>3月15日(木)午後・E会場</p> <p>13:30 P101a The Stellar Spectroscopic Variabilities Investigated with the AKARI Near-infrared Catalogs of the Large Magellanic Cloud Jin Zhang(The University of Tokyo)</p> <p>P102c Subaru/COMICS observations of V2492 Cyg Takuya Fujiyoshi(Subaru Telescope)</p> <p>13:42 P103a First Near-Infrared Imaging Polarimetry of Young Stellar Objects in the Circinus Molecular Cloud Jungmi Kwon(ISAS/JAXA)</p> <p>13:54 P104b 銀河面におけるTタウリ型星の広域探査 大朝由美子(埼玉大学)</p> <p>13:54 P105b 近赤外観測から探るへび座分子雲に おける超低質量天体形成 小田達功(埼玉大学)</p> <p>13:54 P106b 高銀緯分子雲における星形成の分光 探査観測(2) 平塚雄一郎(埼玉大学)</p> <p>14:06 P107b 「あかり」近・中間赤外線スリットレス分 光アーカイブの作成: 4. 中間赤外線(波 長 5-13 μm) スペクトルの公開に向けて 山岸光義(宇宙航空研究開発機構)</p> <p>P108c High Resolution ALMA Images of Young Stellar Objects in Lupus from the SOLA Project Masao Saito(NAOJ)</p> <p>14:06 P109b 太陽系類似天体 IRAS16293-2422B でのビニルシアナイドの検出 ALMA FITS archive の利用成果(1) 大石雅寿(国立天文台)</p> <p>14:06 P110b 大質量星形成領域 NGC6334Iにお けるメチルアミンの検出 ALMA FITS archive の利用成果(2) 大石雅寿(国立天文台)</p> <p>14:18 P111a 低質量原始星形成領域における硫黄 関連分子のサーベイ観測 大屋瑤子(東京大学)</p>
-------	--	--

14:30	P112a 星形成領域 L1527 における H ₂ CO の重水素化物の ALMA 観測 吉田健人(東京大学/理化学研究所)	10:42	P124b Dynamics of jets/outflows from high-mass young stellar objects revealed by KaVA and ALMA observations Jungha Kim(SOKENDAI/NAOJ)
14:42	P113a ペルセウス座分子雲での重水素濃縮度のサーベイ 今井宗明(東京大学)	10:42	P125b 星形成レガシープロジェクト III W40 と Serpens South 領域の C ¹⁸ O 分子輝線観測 下井倉ともみ(東京学芸大学)
14:54	P114a Class 0 低質量原始星 IRAS 15398-3359 の円盤形成領域における化学的構造 大小田結貴(東京大学)	10:54	P126b 星形成初期段階での円盤風によるリング構造の形成条件 高橋実道(工学院大学/国立天文台)
15:06	P115a 星形成領域における窒素同位体分別過程 古家健次(筑波大学)	10:54	P127b 分子雲コアの角運動量の起源について(その1) 三杉佳明(名古屋大学)
15:18	P116a 超伝導カロリメータを用いた低温下の星間分子計測実験(1) 山田真也(首都大学東京)	10:54	P128b 2次元輻射流体計算による低金属度大質量星形成 福島肇(京都大学)
3月16日(金) 午前・E会場		11:06	P129b 光電離・光解離による分子雲の破壊と星形成効率 猪口睦子(京都大学)
09:30	P117a ALMA reveals a hub of filamentary molecular clouds in Sgr B2(N) II 樋口あや(理化学研究所)	3月16日(金) 午後・E会場	
09:42	P118a Orion KL 電波源 I における高励起一酸化ケイ素分子・水分子輝線の放射機構と物理的環境 廣田朋也(国立天文台)	13:30	P130a BISTRO Project Status (3) Tetsuo Hasegawa(NAOJ)
09:54	P119a 野辺山 45 m電波望遠鏡による 108 GHz メタノールメーザーのサーベイ 小林かおり(富山大学)	13:42	P131a Understanding the properties of filaments observed in the interstellar medium Doris Arzoumanian(Nagoya University)
10:06	P120a Long cyanopolyynes at the G28.28-0.36 hot core Kotomi Taniguchi(SOKENDAI/NRO)	13:54	P132a グロビュールの砂時計型磁場構造の探査 神鳥亮(アストロバイオロジーセンター)
10:18	P121a Protostellar Outflows in the Perseus Molecular Clouds Yichen Zhang(RIKEN)	14:06	P133a 分子雲形成時に駆動される磁気乱流の性質 岩崎一成(大阪大学)
10:30	P122a Class 0 天体 MMS5 から駆動するアウトフローとジェットのアウトラインのずれ 松下祐子(九州大学)	14:18	P134a Development of a Full Multigrid Gravity Solver for Athena++ 富田賢吾(大阪大学)
10:42	P123b KaVA による 44 GHz 帯メタノールメーザーの VLBI イメージングサーベイ 杉山孝一郎(国立天文台)	14:30	P135a 原始星近傍の降着流の円盤初期磁場依存性に関する磁気流体シミュレーション 高棹真介(名古屋大学)

P2. 星・惑星形成

14:42	P136a 星・原始惑星系円盤形成の解析的モデルの構築に向けて：磁気制動のモデル化 高橋実道（工学院大学 / 国立天文台）	3月14日（水）午後・E会場	13:00	P201a 「あかり」用いたTタウ型星におけるダスト円盤消失時間の研究 前嶋宏志（東京大学 / 宇宙航空研究開発機構）
14:54	P137a 大質量星形成における複合フィードバックとその金属量依存性 田中圭（フロリダ大学）		13:12	P202a J16394544 に付随する強度の非対称性をもつ多重リング円盤 小西美穂子（国立天文台）
3月17日（土）午前・E会場			13:24	P203a ALMA polarization observation toward the protoplanetary disk around HD 142527 大橋聡史（理化学研究所）
09:30	P138a 星団を形成するクランプの統計的研究 下井倉ともみ（東京学芸大学）		13:36	P204a Crescent and Ring Structures Discovered in the Protoplanetary Disk around V 1247 Ori 武藤恭之（工学院大学）
09:42	P139a 星団を形成するクランプの回転を伴う収縮運動 土橋一仁（東京学芸大学）		13:48	P205a ALMA による HD163296 の原始惑星系円盤中の多重リング構造と水輝線探索 野津翔太（京都大学）
09:54	P140a 星形成レガシープロジェクト I 高感度 CO(1-0) サーベイ観測によるオリオン座 A 分子雲の分子流探査 田辺義浩（茨城大学）		14:00	P206a スパースモデリングによる原始惑星系円盤 HD142527 の超解像イメージング 山口正行（東京大学 / 国立天文台）
10:06	P141a 星形成レガシープロジェクト II FIR3/4/5 領域でのアウトフローと高密度ガスの相互作用 小山田朱里（日本女子大学）		14:12	P207a CO ₂ 氷が引き起こすダストの衝突破壊：HL Tau 円盤の観測への示唆 奥住聡（東京工業大学）
10:18	P142a Spatially resolved study of the CO selective dissociation in the Oph-A region 山岸光義（宇宙航空研究開発機構）		14:24	P208a 円盤上におけるガス巨大渦の構造 小野智弘（京都大学）
10:30	P143a ALMA ACA 7m observations toward two Orion cores very close to the onset of star formation 立松健一（国立天文台）		14:36	P209a 原始惑星系円盤内における小質量惑星近傍のガス流れ場の惑星質量依存性 桑原歩（東京工業大学）
10:42	P144a W3 GMC の NH ₃ 観測と YSOs の分布による星形成史の研究 飯田美幸（筑波大学）		14:48	P210a 原始惑星系円盤ガスと惑星大気のリサイクルリング：等温・非等温計算の比較 黒川宏之（東京工業大学）

P3. 星・惑星形成

3月15日(木) 午前・E会場		3月15日(木) 午後・D会場	
09:30	P211a 衝突破壊プロセスを入れたN体計算における原始惑星の動径方向移動 小南淳子(東京工業大学)	13:30	P301a MOA-2015-BLG-404:低質量星周りの巨大ガス惑星 永金昌幸(大阪大学)
09:42	P212a ダストの乱流拡散を含む方程式の再考と2流体不安定性によるリング形成 富永遼佑(名古屋大学)	13:42	P302a 巨大ガス惑星に付随するスーパーネプチューンの衛星系、または褐色矮星連星: MOA-2015-BLG-337 宮崎翔太(大阪大学)
09:54	P213a 平均場近似を用いたダスト・アグリゲイトの光学特性計算法 田崎亮(東北大学)	13:54	P303a 重力マイクロレンズ観測結果と惑星形成モデルとの比較 鈴木大介(宇宙航空研究開発機構)
10:06	P214a デッドゾーン内側境界における岩石質ダストの濃集 植田高啓(東京工業大学)	14:06	P304b 低増光率マイクロレンズイベントにおける複数惑星系の初検出: OGLE-2014-BLG-1722 鈴木大介(宇宙航空研究開発機構)
10:18	P215a 付着N体計算で探るダスト集合体の引張強度 辰馬未沙子(東京大学/国立天文台)	14:06	P305b 小惑星の大規模な衝突・破壊過程の高解像度数値計算と集積天体の形状分布の解析 犬塚修一郎(名古屋大学)
10:30	P216a 原始惑星系円盤における紫外線/X線光蒸発の金属量依存性 仲谷峻平(東京大学)	14:06	P306b 磁気流体波が駆動するガス惑星からの大気散逸速度の乱流強度依存性 田中佑希(東京工業大学)
10:42	P217a デブリ円盤のガスは原始惑星系円盤の残留ガスか? 小林浩(名古屋大学)	14:18	P307b ALMA分光観測による、タイタンにおける大気組成時空間変動の観測的取得と氷衛星大気化学の制約 飯野孝浩(東京農工大学)
10:54	P218b ALMAアーカイブデータを用いたデブリ円盤の観測的研究 佐藤愛樹(茨城大学)	14:18	P308b 太陽系外惑星HAT-P-39bのトランジット超低分散分光観測 矢口聖(兵庫県立大学)
10:54	P219b 原始惑星系円盤内縁のダスト濃集領域が作り出す円盤表層の影構造 植田高啓(東京工業大学)	14:18	P309b M型伴星に潮汐固定された惑星のhabitabilityに主星が与える影響 奥谷彩香(東京工業大学)
10:54	P220b 円盤形成におけるホール効果の影響:ダストサイズ分布と宇宙線強度依存性 古賀駿大(九州大学)	14:30	P310a 多波長測光データの解析によるトランジット偽検出シナリオの制限 宮川浩平(東京工業大学)
		14:42	P311a Doppler Tomography法によるWASP-33bの軌道傾斜角の測定 渡辺紀治(総合研究大学院大学)

Q. 星間現象

14:54	P312a XMM-Newton 衛星による系外惑星 HD189733b のトランジット観測 上塚奈々絵 (奈良女子大学)	3 月 15 日 (木) 午後・C 会場	
15:06	P313a 同期回転する水惑星の気候とスペクトル 藤井友香 (東京工業大学)	13:30	Q01a 超新星残骸 G323.7-1.0 における 6.4 keV 鉄輝線と低温プラズマの発見 佐治重孝 (名古屋大学)
15:18	P314a 大気大循環モデルを用いた系外惑星の光度曲線解析による自転傾斜角推定 中川雄太 (東京大学)	13:42	Q02a 「すざく」「NuSTAR」による重量崩壊型超新星残骸カシオペア A の X 線精密分光 中嶋大 (大阪大学)
3 月 16 日 (金) 午前・D 会場		13:54	Q03a X 線天文衛星「すざく」による超新星残骸 Sgr A East の過電離プラズマの探査 小野彰子 (奈良女子大学)
09:30	P315a GPU を用いた超高解像度の惑星形成 N 体シミュレーション 押野翔一 (国立天文台)	14:06	Q04a すざく衛星による超新星残骸 IC 443 の過電離プラズマの電離状態の調査 平山ありさ (奈良女子大学)
09:42	P316a 衝突脱ガスによる地球大気形成における後期集積天体組成の制約 櫻庭遥 (東京工業大学)	14:18	Q05a H α 輝線の偏光観測による超新星残骸衝撃波での宇宙線量の測定について 霜田治朗 (青山学院大学)
09:54	P317a 巨大氷惑星の衝突現象における天体初期条件の依存性 黒崎健二 (名古屋大学)	14:30	Q06a 超新星残骸の X 線ガンマ線観測による衝撃波近傍の拡散係数への制限 辻直美 (立教大学)
10:06	P318a 「あかり」中間赤外線全天サーベイデータを用いた黄道光ダストバンドの形成プロセスの研究 高羽幸 (名古屋大学)	14:42	Q07a 超新星残骸 W44 超高速分子雲の起源 I: ALMA による詳細観測 田邊恭介 (慶應義塾大学)
10:18	P319a 系外惑星におけるダスト雲の空隙率進化とその空間構造 大野和正 (東京工業大学)	14:54	Q08a 超新星残骸 W44 超高速分子雲の起源 II: 磁気流体シミュレーション 野村真理子 (慶應義塾大学)
	P320c G 型巨星における惑星系の日韓共同探査 IX: K 型巨星を周回する惑星の発見 大宮正士 (国立天文台)	15:06	Q09a 超新星残骸 W44 からの過電離プラズマの空間構造 松村英晃 (京都大学)
		15:18	Q10a X 線天文衛星すざくによる銀河系高温ガスハローの空間分布測定 2 中島真也 (理化学研究所)
			Q11c プラズマ粒子シミュレーションを用いた無衝突衝撃波遷移層の構造のベータ依存性の研究 篠田理人 (青山学院大学)

3月16日(金) 午前・C会場		3月16日(金) 午後・C会場	
09:30	Q12a NRO 銀河面サーベイプロジェクト (FUGIN): 爆発的星形成領域 W43 の CO 輝線観測 I 河野樹人(名古屋大学)	13:30	Q24a 星間ガスの微細構造と原子・分子相転移と乱流の研究 立原研悟(名古屋大学)
09:42	Q13a NRO 銀河面サーベイプロジェクト (FUGIN): Spitzer Bubble N4 の星形成 藤田真司(名古屋大学)	13:42	Q25a 分子雲形成・進化・破壊と分子雲衝突による星形成を含んだ分子雲質量関数の時間発展 小林将人(名古屋大学)
09:54	Q14a NRO 銀河面サーベイプロジェクト (FUGIN): ホットコアの無バイアスサーベイ(2) 解析手法の改良と銀経 10°-20° の解析結果 佐藤一樹(東京大学)	13:54	Q26a MAXI J1421-613 周辺からの X 線円環放射の発見 信川久実子(奈良女子大学)
10:06	Q15a シェル型 TeV ガンマ線超新星残骸 HESS J1912+101 に付随する分子雲の発見 佐野栄俊(名古屋大学)	14:06	Q27a 第一原理計算による星間氷表面への原子の吸着エネルギーの推定 1: 量子化学計算による系統的予測 中谷直輝(首都大学東京)
10:18	Q16b 野辺山 45m 鏡と VERA による銀河系外縁部星形成領域 WB886 の観測的研究 小出凧人(鹿児島大学)	14:18	Q28a 第一原理計算による星間氷表面への原子の吸着エネルギーの推定 2: 分子雲化学組成への影響 下西隆(東北大学)
10:18	Q17b Cole-Karkkainen 電磁場数値解法を用いた数値チレンコフ放射の抑制特性 松本洋介(千葉大学)	14:30	Q29a M 31 の FIR データを用いたストカスティック加熱モデルに基づいたダスト放射コードの検証 梨本真志(東北大学)
10:18	Q18b W50 と周辺の星間ガスの電波観測から探る相互作用の可能性 酒見はる香(九州大学)	14:42	Q30a 宇宙環境曝露実験によって探る炭素質星間塵の性質 左近樹(東京大学)
10:30	Q19a 「あかり」による銀河系円盤全域における赤外線バブルの統計的研究 花岡美咲(名古屋大学)	14:54	Q31a 窒素含有炭素質ダストの合成実験 遠藤いずみ(東京大学)
10:42	Q20a 大質量星形成領域 Orion B における大規模なスケールでの分子雲衝突の検証 堤大陸(名古屋大学)	15:06	Q32a 野辺山 45m 望遠鏡による近傍銀河核のラインサーベイ観測 I. データ 高野秀路(日本大学)
10:54	Q21a ASTE 望遠鏡を用いた巨大星団 RCW38 における [CI] 輝線マッピング観測 泉奈都子(国立天文台)	15:18	Q33a 野辺山 45 m 望遠鏡による近傍銀河核のラインサーベイ観測 II. 解析 中島拓(名古屋大学)
11:06	Q22a Sgr B2 分子雲複合領域における分子雲衝突と大質量星形成の詳細 榎谷玲依(名古屋大学)		
11:18	Q23a 分子雲衝突数値シミュレーションモデルにおけるコア質量関数 早川貴敬(名古屋大学)		

R. 銀河

3月17日(土) 午前・C会場		3月14日(水) 午後・H会場	
09:30	Q34a 銀河中心北側に位置する角状拡散軟X線放射 山内茂雄(奈良女子大学)	13:00	R01a 相互作用銀河 NGC3110 の ALMA による分子ガスの観測的研究 その2 川名佑佳(日本女子大学)
09:42	Q35a 銀河系中心 50km/s 分子雲の星形成分子雲コア 上原顕太(東京大学)	13:12	R02a ALMA observation of $^{12}\text{CO}/^{13}\text{CO}(J=3-2)$ molecular gas in merging ULIRGs Misaki Ando(SOKENDAI/NAOJ)
09:54	Q36a 熱的プラズマに満たされた銀河中心ローブ 藤沢健太(山口大学)	13:24	R03a ALMA による赤外線銀河 IRAS20551-4250 の系統的高密度分子ガス観測 今西昌俊(国立天文台)
10:06	Q37a Three-Dimensional Simulation of the Formation of Galactic Prominence in the Galactic Central Region Chih-Han Peng(Chiba University)	13:36	R04a Fossil Group 候補 NGC720 周囲の Ultra-Diffuse Galaxies の発見 田中壺(国立天文台)
10:18	Q38a X線天文衛星「ひとみ」搭載 SGD によるかに星雲からの偏光ガンマ線の観測 内田悠介(東京大学/宇宙航空研究開発機構)	13:48	R05b 遠方銀河におけるサブミリ輝線 森脇可奈(東京大学)
10:30	Q39a 硬X線偏光検出器 PoGO+ 気球実験によるカニ星雲の偏光観測 高橋弘充(広島大学)	13:48	R06b 空間分解したケニカット-シュミット則と諸物理量との関係 依田萌(名古屋大学)
10:42	Q40a CTA の高空間分解能によるかに星雲の観測シミュレーション 高橋知也(山形大学)	13:48	R07b NRO レガシープロジェクト COMING(17): 近傍銀河における分子ガス速度場のフーリエ解析 野間勇斗(関西学院大学)
	Q41c OH 18 cm 線で探る Pipe nebula の構造形成 海老澤勇治(東京大学)	14:00	R08a NRO レガシープロジェクト COMING(18): 近傍銀河の $^{12}\text{CO}(J=1-0)/^{13}\text{CO}(J=1-0)$ 比に関する統計的研究 佐藤佑哉(筑波大学)
10:54	Q42a コロナ質量放出から時間遅延した地球周辺の電荷交換 X線イベントの検出 伊師大貴(首都大学東京)	14:12	R09a 「あかり」赤外線全天マップで探る早期型銀河のダストと分子ガス・X線プラズマの関係 國生拓摩(名古屋大学)
11:06	Q43a 乱流磁場を考慮した相対論的磁気流体風の減速 田中周太(甲南大学)	14:24	R10a HIPASS 及び 2dFGRS を用いた銀河の HI ガス量進化 上野紗英子(鹿児島大学)
		14:36	R11a 銀河系中心領域の暗い質量分布による S2 の視線速度への影響について 孝森洋介(和歌山工業高等専門学校)
		14:48	R12b Sub-millimeter Detection of the IR Stars around Sgr A* by ALMA Masato Tsuboi (JAXA)

14:48	R13b	矮小楕円体銀河の進化に与える暗黒物質ハローの影響 佐々木秀幸(防衛大学校)	11:06	R25b	HST アーカイブデータによる近傍銀河 M83 の測光 長谷川隆(県立ぐんま天文台)
14:48	R14b	Dark halo structure in Carina dwarf spheroidal galaxy: Joint analysis of multiple stellar components 林航平(国立天文台)	11:06	R26b	遷音速銀河風モデルと星形成銀河への応用 五十嵐朱夏(筑波大学)
	R15c	間欠的星形成を許す矮小楕円体銀河の暗黒物質ハロー 釜谷秀幸(防衛大学校)		R27c	The Far Distance to G21.87+0.01 from Proper Motion Measurement of Water Masers 山内彩(日本学術振興会/国立天文台)
	R16c	Sculptor 矮小楕円体銀河の RR 型変光星の金属量分布 本間英智(国立天文台)		R28c	一般的な時間対称時間積分法の構築 船渡陽子(東京大学)
3月15日(木) 午前・H会場					
09:30	R17a	Hyper Suprime-Cam で探るアンドロメダ銀河の恒星ストリームとハロー構造 小宮山裕(国立天文台)			
09:42	R18a	アンドロメダ銀河 North-Western ストリームの形成過程 桐原崇亘(千葉大学)			
09:54	R19a	ALMA による近傍銀河 NGC 613 中心領域の [C] 観測 宮本祐介(国立天文台)			
10:06	R20a	Environments and Line-of-Sight Structure of Strong Gravitational Lens Galaxies to $z \sim 0.8$ Kenneth Wong(NAOJ)			
10:18	R21a	Faraday tomography による銀河磁場解析 江口開哉(熊本大学)			
10:30	R22a	VLBI 位置天文観測によるペルセウス座腕減衰期の“初”検出? 坂井伸行(国立天文台)			
10:42	R23a	天の川銀河のバー形成史とダークマターハローの回転 藤井通子(東京大学)			
10:54	R24a	SAGA データベースを用いた銀河系の動力学化学進化 松野允郁(総合研究大学院大学)			

S. 活動銀河核

3月14日(水) 午後・I会場		14:48	S12b	活動銀河核におけるX線ガンマ線フレア解析 古谷泰愛(芝浦工業大学)	
13:00	S01a	高エネルギーニュートリノ事象 IceCube-170922A: IceCubeの観測と誤差領域内にフレアしたガンマ線ブレーザーを検出する偶然確率の算出 林田将明(千葉大学)	14:48	S13b	HSC Transient Survey (VII): Variability-Selected faint AGNs 木村勇貴(東北大学)
13:12	S02a	高エネルギーニュートリノ事象 IceCube-170922A: フェルミ衛星による誤差領域内でのGeV flaring ブレーザー TXS 0506+056の検出 田中康之(広島大学)	14:48	S14b	HSC Transient Survey (VIII): Tidal Disruption Events 諸隈智貴(東京大学)
13:24	S03a	高エネルギーニュートリノ事象 IceCube-170922A: 可視近赤外線追観測 諸隈智貴(東京大学)	3月15日(木) 午前・I会場		
13:36	S04a	M87 活動銀河核ジェットのシンクロトロン放射モデルにおける質量注入モデル 荻原大樹(東北大学)	09:30	S15a	高速度コンパクト雲 CO--0.40--0.22中に発見された点状電波源の観測的研究 岩田悠平(慶應義塾大学)
13:48	S05a	電波銀河 M87 のジェットからの熱的放射の検証 大曾根聡子(元産業技術総合研究所)	09:42	S16a	Intricate Ionized Gas Flows Approaching to Sgr A* Masato Tsuboi(JAXA)
14:00	S06a	ブレーザー OJ287 の多波長偏光モニターによる粒子加速領域の特定 笹田真人(国立天文台)	09:54	S17a	硬X線を用いた HCG 16 (Arp 318) における活動銀河核の探査 小田紗映子(京都大学)
14:12	S07a	VLBIを用いた $z > 4$ radio-loud クェーサーの電波構造の観測的研究 古谷庸介(山口大学)	10:06	S18a	コンプトンショルダーを用いたX線反射モデルによる活動銀河核トーラスの物理状態の推定 挽谷政弥(広島大学)
14:24	S08a	電波銀河 Pictor A の西ホットスポットの遠赤外線超過の検出 磯部直樹(宇宙航空研究開発機構)	10:18	S19a	3.4 μm /4.6 μm ダスト反響法によるクェーサーダストトーラスのサイズ測定 小久保充(東北大学)
14:36	S09b	On the Disappearance of a Cold Molecular Torus around the Low-luminosity Active Galactic Nucleus of NGC 1097 泉拓磨(国立天文台)	10:30	S20a	一酸化炭素吸収バンドから探るAGNトーラス内縁付近の状態と構造: 銀河の赤外光度・可視分類との関連 馬場俊介(宇宙航空研究開発機構/東京大学)
14:36	S10b	クランピートーラスからの広帯域X線スペクトルモデルのCircinus galaxyへの適用 谷本敦(京都大学)	10:42	S21a	大局的3次元磁気流体計算による銀河中心核トーラスの磁気的活動性 工藤祐己(鹿児島大学)
14:36	S11b	Swift衛星による電波銀河 NGC1275 の可視光からX線帯域の変動解析 今里郁弥(広島大学)	10:54	S22a	Soft X-ray Excess Variation Causing Changing-Look Active Galactic Nucleus Hirofumi Noda(Tohoku University)

T. 銀河団

11:06	S23a	狭輝線 I 型セイファート銀河 Swift J2127.4+5654 におけるディレイとハード一次成分 三宅克馬 (東京大学)	3 月 14 日 (水) 午後・F 会場
11:18	S24a	二重 AGN をもつ高光度赤外線銀河 Mrk 463 の広帯域 X 線スペクトル解析 山田智史 (京都大学)	13:00 T01a 近傍銀河団 A2319 内に存在するサブハローのガス質量比の測定 大谷花絵 (奈良女子大学)
3 月 15 日 (木) 午後・I 会場			13:12 T02a 銀河団における高温ガスの乱流による共鳴散乱の影響の定量化 古川愛生 (東京理科大学)
13:30	S25a	狭吸収線を用いた AGN アウトフロー加速の直接検出の試み 三澤透 (信州大学)	13:24 T03a 機械学習を用いた熱的プラズマのパラメータ推定の自動化 須永夏帆 (首都大学東京)
13:42	S26a	クエーサーアウトフロー角度依存モデルの検証 伊東大輔 (信州大学)	13:36 T04a 衝突銀河団 Cygnus A cluster 中の衝突電離非平衡プラズマの探査 井上翔太 (大阪大学)
13:54	S27a	X-ray reverberation lags due to AGN winds 水本岬希 (宇宙航空研究開発機構 / 東京大学)	T05c XMM 衛星データを用いた MCXC J0157.4-0550 の 2 次元温度密度構造の解析 楊冲 (広島大学)
14:06	S28a	ALMA Observation of an Infrared-bright Dust-Obscured Galaxy with Strong Ionized Gas Outflow 鳥羽儀樹 (ASIAA)	13:48 T06a X線/可視光を用いた低表面輝度銀河団の力学状態の研究 馬場崎康敬 (名古屋大学)
14:18	S29a	すばる HSC-SSP と FIRST 電波探査による $z \geq 1$ 電波銀河の Radio-loudness 山下拓時 (愛媛大学)	14:00 T07a すばる HSC 銀河団カタログの弱重力レンズ効果による可視光観測量と銀河団質量の関係の導出 村田龍馬 (東京大学)
14:30	S30a	7 年間のデータに基づく MAXI/GSC 高銀緯天体カタログ第三版の作成 川室太希 (国立天文台)	14:12 T08a HSC による弱重力レンズ効果を利用した銀河団探査 宮崎聡 (国立天文台)
			14:24 T09a XMM-Newton 衛星による 5 つの高赤方偏移 HSC 銀河団の観測 渡邊翔子 (奈良女子大学)
			14:36 T10b HSC-SSP サーベイ領域 Weak Lensing 銀河団の X 線フォローアップ計画 (2) 三石郁之 (名古屋大学)

U. 宇宙論

3月15日(木) 午前・F会場		3月14日(水) 午後・C会場			
09:30	T11a	スパーモデル実装ファラデーモ グラフィによる銀河間物質探査 I 山口諒祐(鹿児島大学)	13:00	U01a	POLARBEARによる原始重力波起源 Bモード測定の現状と Simons Array のパイプライン開発 茅根裕司(カリフォルニア大学)
09:42	T12a	銀河団 RXJ1347-1145 の数値シミュ レーション I 石崎滉也(鹿児島大学)	13:12	U02a	宇宙初期における磁場散逸によるエン トロピー生成: 小スケール原始磁場へ の新しい制限 嵯峨承平(京都大学)
09:54	T13a	RedMapper 銀河団カタログにおけるア センブリバイアスの観測と N 体シミュ レーションの比較 砂山朋美(カブリ IPMU)	13:24	U03a	21cm 線観測のための中性水素のバイ アスモデリング 安藤梨花(名古屋大学)
10:06	T14a	銀河団と中心銀河の楕円率と主軸の 向きの相関 岡部泰三(東京大学)	13:36	U04a	中性水素分布におけるボイド構造探査 の可能性 遠藤隆夫(名古屋大学)
10:18	T15a	銀河団の進化を支配する Fundamental Plane 藤田裕(大阪大学)	13:48	U05a	トラフレンズによる 10kpc 以下の密度 ゆらぎの制限 井上開輝(近畿大学)
				U06c	クェーサー MG0751+2716 の重力レン ズモデル 堀口康男(近畿大学)
			14:00	U07a	バリオン効果まで加味した銀河団ハ ローの物質分布のモデル化 白崎正人(国立天文台)
			14:12	U08a	Strong orientation dependence of surface mass density profiles of dark haloes at large scales 大里健(東京大学)
			14:24	U09a	粒子軌道に基づく N 体ダークハローの 構造 杉浦宏夢(京都大学)
			14:36	U10a	すばる HSC 銀河を用いたコズミックシ ア測定と宇宙論 日影千秋(東京大学)
			14:48	U11a	Super-sample covariances for cosmic shear and galaxy-galaxy lensing 高橋龍一(弘前大学)

V1. 観測機器

3月15日(木) 午前・C会場		3月15日(木) 午前・G会場	
09:30	U12a 銀河団分布と γ 線背景の相互相関信号 橋本大輝(名古屋大学)	10:06	V101a 近接連星からの電磁波バースト、そして重力波バースト 遊馬邦之(早稲田大学)
09:42	U13a Grid-based calculations for perturbation theory of large-scale structure 樽家篤史(京都大学)	10:18	V102a 東アジア VLBI ネットワーク (EAVN) の大規模試験観測に基づくアレイ性能評価報告 秦和弘(国立天文台)
09:54	U14a 「最近の研究によると、ダークマターが宇宙成分の23%を、ダークエネルギーが約73%を占めていると推測されます。」この事の解明。ダークエネルギーとは何か。 小堀しづ	10:30	V103a 広帯域フィードの開発 (XIII) 氏原秀樹(情報通信研究機構)
10:06	U15b どのように宇宙の素粒子はできたか。ビッグバンの以前、どうして電磁気は次々1束の電磁気を増加させ1束の電磁気のエネルギーを大きくしたか。 小堀しづ	10:42	V104a 野辺山45 m電波望遠鏡搭載用100-GHz帯電波カメラのMKIDアレイ開発 村山洋佑(筑波大学)
	U16c ビッグバンの以前、ヒッグス粒子は存在できたか。 小堀しづ	10:54	V105a 100 GHz 帯連続波カメラ冷却光学系で用いるSiレンズの反射防止コーティングの開発 服部将吾(筑波大学)
		11:06	V106b 野辺山45 m電波望遠鏡搭載同時観測用周波数フィルタの開発 (II) 岡田望(大阪府立大学)
		11:06	V107b JAXA 深宇宙探査用54mアンテナ開発の現状 村田泰宏(宇宙航空研究開発機構)
		11:06	V108b 気球 VLBI の姿勢制御地上試験 土居明広(宇宙航空研究開発機構)
		11:18	V109b 気球 VLBI 地上振り子試験 河野裕介(国立天文台)
		11:18	V110b 高萩/日立32 m電波望遠鏡の整備状況 (16) 米倉覚則(茨城大学)
		11:18	V111b 山口干渉計の構築状況 II 青木貴弘(山口大学)
			V112c VERA-upgrade 計画の進捗 II 小山友明(国立天文台)
			V113c JVN 大規模電波源探査に向けた感度測定試験観測 元木業人(山口大学)
			V114c 国際コンソーシアムによる野辺山電波ヘリオグラフの運用 3 増田智(名古屋大学)

V1. 観測機器

3月15日(木) 午後・G会場		14:42	V127b ALMA Band 10 対応の Sideband Separating (2SB) 方式冷却受信機の設計 玉川陽大(関西学院大学)
13:30	V115a 115 GHz 帯 円偏波分離器と導波管型 SSB ユニットの評価 鈴木雅浩(名古屋大学)	14:42	V128b ミリ波補償光学の開発 II. 波面センサー用 GPU 関連器 上田哲太郎(名古屋大学)
13:42	V116a NASCO に向けた NANTEN2 制御系の開発: 4. 2017 年度の進捗 西村淳(名古屋大学)	14:42	V129b Japanese Virtual Observatory (JVO) を通じた野辺山 45m 電波望遠鏡レガシープロジェクト COMING および FUGIN の観測データ公開プランについて 鳥居和史(国立天文台)
13:54	V117a SMILES-2 630/770 GHz SIS 受信機のための統合導波管回路の開発 長谷川豊(宇宙航空研究開発機構)	14:54	V130b LireBIRD 搭載光学系の公差解析 鹿島伸悟(国立天文台)
14:06	V118b DESHIMA: 解析ソフトウェアの雑音除去アルゴリズムのシミュレーションを用いた評価 陳家偉(国立天文台)	14:54	V131b 装置偏光とシグナルの漏れ込みによる系統誤差混入ゼロを実現したマーチン・パレット型フーリエ分光器の開発 官野史靖(東北大学)
14:06	V119b 超伝導デバイス性能向上への取り組み 宮地晃平(国立天文台)	V132c THz 帯超伝導ヘテロダイン分光器の開発による SMILES-2 衛星の天文観測応用 西田侑治(大阪府立大学)	
14:06	V120b NASCO に向けた NANTEN2 制御系の開発: 5. Robot Operating System による電波望遠鏡制御システムの構築 塩谷一樹(名古屋大学)	V133c 光学素子評価のためのサブミリ波帯時間領域分光装置の開発 大田泉(甲南大学)	
14:18	V121b NASCO に向けた NANTEN2 制御系開発: 6. システム評価と試験観測 近藤高志(名古屋大学)	15:06	V134a LMT 50 m 鏡用 2 ミリ受信機システムの開発と爆発的星形成銀河、巨大ブラックホールの研究 III: 搭載計画 川邊良平(国立天文台)
14:18	V122b 10m 電波望遠鏡による太陽系地球型惑星の大気環境監視ミッションの進捗報告 築山大輝(大阪府立大学)	15:18	V135a ミリ波補償光学の開発 I. プロジェクトの概要 田村陽一(名古屋大学)
14:18	V123b 南極望遠鏡用 500GHz 帯 2SB 受信機の間周波数(IF)帯域の広帯域化 佐藤雄登(筑波大学)		
14:30	V124b 230GHz 帯準光学周波数分離フィルターの試作 木村公洋(大阪府立大学)		
14:30	V125b 0.9THz 帯超伝導 HEB ミキサにおける AIN バッファ層の影響の評価 竹ヶ原諒貴(東京大学)		
14:30	V126b ミリ波帯超伝導 SIS ミキサの線形性評価と直列接合型素子の開発 中島拓(名古屋大学)		

3月16日(金) 午前・G会場		3月16日(金) 午後・G会場	
09:30	V136a ALMA の運用 (12) と拡張計画 (6) 井口聖 (国立天文台)	13:30	V146a ALMA 単面鏡太陽観測のためのビー ムパタンモデルとデコンボリューション 岩井一正 (名古屋大学)
09:42	V137a ALMA データ解析ソフト CASA の開発 10 川崎渉 (国立天文台)	13:42	V147a 1.85m 電波望遠鏡による広帯域観測 のための新受信機システム開発 上田翔汰 (大阪府立大学)
09:54	V138a スパースモデリングによる ALMA 向け イメージングツールの開発 : (1) 池田思朗 (統計数理研究所)	13:54	V148a 口径食の無い視野を持つ軸対称双反 射鏡アンテナの開口能率 永井誠 (国立天文台)
10:06	V139a スパースモデリングによる ALMA 向け イメージングツールの開発 : (2) 中里剛 (国立天文台)	14:06	V149a へら絞り法を用いた口径 2m サブミリ波 アンテナ面の製作と移動局実証計画 三好真 (国立天文台)
10:18	V140a Update on the ALMA band 2+3 receiver collaboration, and latest work at NAOJ Gonzalez Alvaro(NAOJ)	14:18	V150a 超小型探査機による火星大気の THz 波ヘテロダイン分光観測計画 前澤裕之 (大阪府立大学)
10:30	V141a SIS ミキサによるマイクロ波増幅効果と その原理実証 小嶋崇文 (国立天文台)	14:30	V151a 周波数変調局部発振器による新しいミ リ波サブミリ波分光法 : VII. 輝線埋め 込みシミュレーションと天体信号による 総合性能評価 谷口暁星 (東京大学)
10:42	V142a Next-generation multibeam SIS receiver development in NAOJ: strategy, roadmap, and proof-of-concept Wenlei Shan(NAOJ)	14:42	V152a サブミリ波帯実験室分子分光計の開 発と初期成果 千葉雄太郎 (東京大学 / 理化学研究所)
10:54	V143a DESHIMA: 新技術「超伝導オンチップ・ フィルターバンク」による初の天体ス ペクトル検出 遠藤光 (Delft University of Technology)	14:54	V153a テラヘルツ強度干渉計の実現に向けて 松尾宏 (国立天文台)
11:06	V144a DESHIMA: データ解析パッケージ DE:CODE の開発とその解析手法 石田剛 (東京大学)		
11:18	V145a DESHIMA: DE:CODE による DESHIMA 性能評価 鈴木向陽 (名古屋大学)		

V2. 観測機器

3月17日(土) 午前・G会場		3月15日(木) 午後・H会場	
09:30	V154a 宇宙マイクロ波背景放射偏光観測実験 POLARBEAR-2 の準備状況 長谷川雅也(高エネルギー加速器研究機構)	13:30	V201a Nano-JASMINE と小型 JASMINE の全体的進捗 郷田直輝(国立天文台)
09:42	V155a 宇宙マイクロ波背景放射偏光観測実験 POLARBEAR-2 のレーザーシステムの光学性能評価1 金子大輔(東京大学)	13:42	V202a Nano-JASMINE と小型 JASMINE の解析ソフトウェアの開発 山田良透(京都大学)
09:54	V156a 宇宙マイクロ波背景放射偏光観測実験 POLARBEAR-2 のレーザーシステムの光学性能評価2 濱田崇穂(東北大学)	13:54	V203b 小型 JASMINE 衛星の要素技術検証 上田暁俊(国立天文台)
10:06	V157a CMB 偏光観測実験 POLARBEAR による雲の偏光の評価 高倉理(高エネルギー加速器研究機構)	13:54	V204b JASMINE における星像位置の高精度決定実証 矢野太平(国立天文台)
10:18	V158a Simons Observatory 計画と望遠鏡の光学設計 松田フレドリック(東京大学)	13:54	V205b 実測データを用いた小型 JASMINE 高精度迷光解析 鹿島伸悟(国立天文台)
10:30	V159a CMB 偏光観測衛星 LiteBIRD 概念設計 関本裕太郎(宇宙航空研究開発機構)	14:06	V206a 民生品を用いた・新型スタートラッカの開発 小澤俊貴(東京工業大学)
10:42	V160a CMB 偏光観測衛星 LiteBIRD における系統誤差の研究 XI 永田竜(高エネルギー加速器研究機構)	14:18	V207a 紫外線広視野サーベイのためのキューブサットの開発 谷津陽一(東京工業大学)
10:54	V161a 大角度スケール CMB 偏光観測実験 GroundBIRD - 回転読み出し性能評価 長崎岳人(高エネルギー加速器研究機構)	14:30	V208a ロケット観測実験 CIBER-2: プロジェクト進捗状況 佐野圭(関西学院大学)
		14:42	V209b ロケット観測実験 CIBER-2: 振動試験と振動シミュレーション 太田諒(関西学院大学)
		14:42	V210b 第8回すばる望遠鏡主鏡再蒸着作業報告 沖田博文(国立天文台)
		14:42	V211b MOIRCS 用マイクロレンズアレイ面分光ユニットの開発: IFU の冷却試験 石垣剛(岩手大学)
		14:54	V212b 西はりま天文台「なゆた望遠鏡」の運用 伊藤洋一(兵庫県立大学)
		14:54	V213b 「なゆた望遠鏡」の可視光分光器MALLSに取り付ける新CCDカメラの開発 杉江祐介(兵庫県立大学)

14:54	V214b 可視赤外線同時カメラ HONIR における一露出型含む偏光モードの性能評価 長木舞子(広島大学)	10:30	V226a 次世代赤外線天文衛星計画 SPICA の最新状況 金田英宏(名古屋大学)
15:06	V215b 全反射型口径1m宇宙太陽望遠鏡の設計検討 末松芳法(国立天文台)	10:42	V227a スペース中間赤外線高分散分光の実現に向けたCdZnTe イメージンググレーティング用コーティングの評価 道井亮介(東京大学)
15:06	V216b 太陽フレア望遠鏡搭載 InGaAs 近赤外カメラピクセル毎非線形感度補正 森田諭(国立天文台)	10:54	V228a 国際大気球太陽観測実験SUNRISE-3に搭載する近赤外線偏光分光装置SCIP 勝川行雄(国立天文台)
15:06	V217b 太陽磁場測定のための近赤外線偏光観測用カメラの冷却システムの開発 石塚典義(東京大学/国立天文台)	11:06	V229a 木曾超広視野高速 CMOS カメラ Tomo-e Gozen Q0 の性能評価 小島悠人(東京大学)
15:18	V218b 明野 50cm 可視光望遠鏡の 2017 年度運用実績 村田勝寛(東京工業大学)	11:18	V230a 反射率測定の問題点と分光光度計の開発 沖田博文(国立天文台)
15:18	V219b 惑星用補償光学系の開発の進捗状況(3) 渡邊誠(岡山理科大学)	3月16日(金)午後・H会場	
	V220c 「あかり」データアーカイブプロジェクトの現状(10) 山村一誠(宇宙航空研究開発機構)	13:30	V231a TMT 計画 ― 進捗報告 臼田知史(国立天文台)
3月16日(金)午前・H会場		13:42	V232a TMT 計画 - 超大型望遠鏡本体の製造準備 齋藤正雄(国立天文台)
09:30	V221a 地球型惑星検出用すばる赤外線ドップラー分光器13: 装置現状とコミッショニング 小谷隆行(アストロバイオロジーセンター/国立天文台/総合研究大学院大学)	13:54	V233a TMT 計画 - 主鏡セグメントの量産 II 大屋真(国立天文台)
09:42	V222a 赤外線視線速度測定装置 IRD の性能検証 2: すばる望遠鏡搭載後の評価 葛原昌幸(アストロバイオロジーセンター/国立天文台)	14:06	V234a 望遠鏡光学系用ガラス材のコーティング剥離プロセスについて 林左絵子(国立天文台)
09:54	V223a Status of KAGRA Mark Andrew Barton(NAOJ)	14:18	V235a TMT 第一期観測装置 IRIS の開発: 瞳アラインメントと観測感度の解析 鈴木竜二(国立天文台)
10:06	V224a 重力波望遠鏡 KAGRA のための防振懸架系の開発 正田亜八香(国立天文台)	14:30	V236a 東京大学アタカマ天文台 TAO プロジェクト: 口径 6.5m 望遠鏡の進捗状況 峰崎岳夫(東京大学)
10:18	V225a 重力波検出器による階層的な観測ネットワークを用いた連星合体の早期方向特定性能の見積もり 藤井善範(東京大学)	14:42	V237a TAO 6.5m 望遠鏡用近赤外線観測装置 SWIMS の開発進捗報告 小西真広(東京大学)
		14:54	V238a 超精密加工による SWIMS-IFU 用ミラーの試験加工 河野志洋(東京大学)

V3. 観測機器

15:06	V239a TAO 6.5 m 望遠鏡用中間赤外線装置 MIMIZUKU の輸送後性能評価試験 上塚貴史(東京大学)	3月15日(木)午後・F会場	13:30	V301b すざく衛星搭載 XIS 応答関数の Si-K edge 付近残差の解消 岡崎貴樹(大阪大学)
15:18	V240a MIMIZUKU 反射光学系の冷却下における結像性能・歪曲収差の評価 森智宏(東京大学)		13:30	V302b MAXI GSC ガスカウンターの稼働状況と性能変化 杉崎睦(理化学研究所)
3月17日(土)午前・H会場			13:30	V303b CALET ガンマ線バーストモニター(CGBM)のエネルギー応答関数の開発 山田祐輔(青山学院大学)
09:30	V241a 恒星フレア研究のための中央大学 36cm 望遠鏡: SCAT の立ち上げ 河合広樹(中央大学)		13:42	V304a 「ひとみ」HXI を用いた軌道上中性子バックグラウンドの評価 鈴木寛大(東京大学)
09:42	V242a 高精度測光分光のための集積回路における長期的な信号変動の補正方式 合田翔平(大阪大学)		13:54	V305a X線天文衛星代替機計画の現状 田代信(埼玉大学/宇宙航空研究開発機構)
09:54	V243a 多地点複数望遠鏡の観測マーシャルシステムの構築 伊藤亮介(東京工業大学)		14:06	V306a X線天文衛星代替機 XARM 搭載 Resolve の開発の現状 石崎欣尚(首都大学東京)
10:06	V244a K-dark バンドでの南極大気光スペクトルを調べる小型南極カメラの開発 津村耕司(東北大学)		14:18	V307a X線天文衛星代替機(XARM)搭載軟X線撮像装置の開発 富田洋(宇宙航空研究開発機構)
			14:30	V308a X線衛星代替機 XARM における科学運用計画 寺田幸功(埼玉大学)
			14:42	V309b X線天文衛星「ひとみ」搭載軟X線撮像検出器 SXI における日照中の校正線源からの輝線中心値の変動調査と光漏れ経路の検討 本田大悟(宮崎大学)
			14:42	V310b X線天文衛星代替機(XARM)搭載 Soft X-ray Imager(SXI)に向けた小型試作 CCD の性能評価 中嶋大(大阪大学)
			14:42	V311b 次期X線天文ミッション搭載に向けた小型X線CCDカメラシステムの開発 岩垣純一(大阪大学)
			14:54	V312a X線偏光観測衛星 IXPE への参加現状 玉川徹(理化学研究所)

15:06	V313a X線偏光観測衛星 IXPE 搭載 X線望遠鏡用受動型熱制御素子サーマルシールドの開発(2) 三石郁之(名古屋大学)	10:30	V323a ダークバリオンの探査ミッション Super DIOS の開発へ向けた検討 II 大橋隆哉(首都大学東京)
15:18	V314b IXPE 搭載 X線望遠鏡用サーマルシールドの開発における環境試験(2) 二村泰介(名古屋大学)	10:42	V324a 小型衛星計画 DIOS 搭載 4回反射型望遠鏡における性能劣化要因の評価 大塚康司(名古屋大学)
15:18	V315b 高エネルギーX線の偏光を検出するマイクロパターンTPC型偏光計の開発 若松孝也(東京理科大学/理化学研究所)	10:54	V325a JAXA 宇宙科学研究所標準平行X線光源室用可視光平行光源の立ち上げと性能評価 浅井龍太(首都大学東京/宇宙航空研究開発機構)
15:18	V316b 高速自転する中性子星からの定常重力波の検出に向けた、X線による連続観測の開拓1 北口貴雄(理化学研究所)	11:06	V326a X線望遠鏡用炭素繊維強化プラスチック(CFRP)反射鏡と位置調整法の開発 大上千智(愛媛大学)
3月16日(金) 午前・F会場		11:18	V327a 次世代X線天文衛星を目指すシリコン高温塑性変形を用いた全反射鏡の開発 中庭望(首都大学東京)
09:30	V317a 軟X線から硬X線の広帯域を高感度で撮像分光する小型衛星計画 FORCE の現状(6) 森浩二(宮崎大学)	3月16日(金) 午後・F会場	
09:42	V318a SOI技術を用いた新型X線撮像分光器の開発 27: これまでの到達点と今後の開発 鶴剛(京都大学)	13:30	V328a 符号化マスクを用いた広領域ガンマ線小型撮像装置の研究 大下紗百合(宇宙航空研究開発機構/東京大学)
09:54	V319a SOI技術を用いた新型X線撮像分光器の開発 28: サブピクセルレベルでのX線応答評価 大野顕司(東京理科大学)	13:42	V329a 超高角度分解能X線望遠鏡のイメージ再構成法 森井幹雄(統計数理研究所)
10:06	V320a サブ秒角でX線天体を撮影する多重像X線干渉計 MIXIM (1) 概念検討と観測目標 林田清(大阪大学)	13:54	V330a 軟X線全天観測超小型衛星 HaloSat の性能評価とサイエンス検討(2) 石原雅士(名古屋大学)
10:18	V321b FORCE 計画用 Si 基板反射鏡の散乱測定実験 松本浩典(大阪大学)	14:06	V331a 超伝導TESカロリメータを用いたK中間子原子のX線精密分光プロジェクト(4) 早川亮大(首都大学東京)
10:18	V322b サブ秒角でX線天体を撮影する多重像X線干渉計 MIXIM (2) 開発の現状 花坂剛史(大阪大学)	14:18	V332a Pt/C 多層膜ブラッグ反射による低エネルギーX線用分光器の開発 武尾舞(首都大学東京)
		14:30	V333a Cherenkov Telescope Array (CTA) 計画: 全体報告(14) 窪秀利(京都大学)
		14:42	V334a CTA 大口径望遠鏡初号機の焦点面カメラ統合試験 平子文(京都大学)

W1. コンパクト天体

14:54	V335a CTA 大口径望遠鏡の分割鏡の開発状況 黒田隼人(東京大学)	3月15日(木)午後・A会場	
15:06	V336a CTA 大口径望遠鏡用分割鏡制御システムの開発状況 深見哲志(東京大学)		
3月17日(土)午前・F会場			
09:30	V337a 重力波源 X線対応天体探査計画 Kanazawa-SAT ³ フライトモデル製作状況 澤野達哉(金沢大学)	13:54	W101a GW170817 の <i>Swift</i> と <i>Chandra</i> による X線・ガンマ線観測 坂本貴紀(青山学院大学)
09:42	V338a Kanazawa-SAT ³ 搭載広視野 X線撮像 検出器のバースト時刻決定・撮像性 能評価 加川保昭(金沢大学)	14:06	W102a MAXIによる GW170817 からの X線放 射の探索 杉田聡司(東京工業大学)
	V339c Kanazawa-SAT ³ 搭載 X線撮像検出器 の真空環境における X線計測 吉田和輝(金沢大学)	14:18	W103a GW170817: すばる望遠鏡 HSC を用い た可視光対応天体の探索 富永望(甲南大学)
09:54	V340a ガンマ線バーストを用いた初期宇宙・ 極限時空探査計画 HiZ-GUNDAM の 進捗 米徳大輔(金沢大学)	14:30	W104a GW170817 : J-GEM による可視近赤 外線追跡観測 内海洋輔(スタンフォード大学)
10:06	V341a 重力波対応天体の追観測を目指した 超小型 GRB 観測衛星における位置決 定精度の評価 田中晃司(広島大学)	14:42	W105a GW170817: 光赤外線対応天体と γ プ ロセス元素合成 田中雅臣(国立天文台)
10:18	V342a GRB 位置決定のための小型衛星搭載 用大型 CsI シンチレータの MPPC 読 み出し性能評価 鳥越健斗(広島大学)	14:54	W106a 中性子星合体における r-process 元 素合成の X線診断 井上進(理化学研究所)
10:30	V343a SPHiNX 衛星で用いる GAGG シンチ レータの温度特性 内田和海(広島大学)	15:06	W107a 単独中性子星の keV-excess 探査と 質量-半径測定 米山友景(大阪大学)
10:42	V344a 地上と宇宙から探る雷放電に同期する 突発ガンマ線観測への取り組み 中澤知洋(東京大学)		W108c MOA グループによる重力波天体 GW170817/AT2017gfo の観測 阿部文雄(名古屋大学)
		15:18	W109b GROWTH による重力波イベント GW170817 の観測 伊藤亮介(東京工業大学)
		15:18	W110b <i>Swift</i> 衛星による NGC1313 X-1 の 1600 日連続観測 吉田鉄生(愛媛大学)
		15:18	W111b 2017.11.7 Crab pulsar large glitch 観測 速報(1): 概要 寺澤敏夫(理化学研究所)
			W112c 2017.11.7 Crab pulsar large glitch 観測 速報(2): 波形変化の有無検証 木坂将大(青山学院大学)

3月16日(金) 午前・A会場		11:18	W125b X線連星電子-イオン二温度ジェットに関する3次元磁気流体数値実験: ジェットの構造とダイナミクス 大村匠(九州大学)
09:30	W113a GW170817の電磁波対応天体は全てガンマ線バーストジェットで説明できるか? 井岡邦仁(京都大学)	11:18	W126b 可視光望遠鏡 AROMA-N 及び、MAXI/GSC を用いた突発天体の多波長観測 北岡佳貴(青山学院大学)
09:42	W114a GW170817/GRB 170817Aのカウンター・ジェット放射 山崎了(青山学院大学)	W127c 電磁波観測によるBHとグラバスターの判別可能性に関する理論的考察 大神隆幸(山口大学)	
09:54	W115a ガンマ線バーストの散乱とGW170817/GRB 170817A 木坂将大(青山学院大学)		
10:06	W116a GW170817 可視赤外対応天体は中心エンジンの活動で説明できるか? 松本達矢(京都大学)	3月16日(金) 午後・A会場	
10:18	W117a 中性子星物質の織り成す多様な状態と中性子星の冷却 野田常雄(久留米工業大学)	13:30	W128a MAXI/GSC の7年間のデータを用いた低銀緯領域でのX線天体カタログ 堀貴郁(京都大学)
10:30	W118a フェルミ・ガンマ宇宙望遠鏡による Geminga パルサーの観測 吉野裕太郎(立教大学)	13:42	W129a 4つのX線新星 MAXI J1535-571, J1621-501, J1630-276, Swift J0243.6+6124 の発見とその正体 -MAXI/GSC が検出した2017年度後半の突発現象 - 根来均(日本大学)
10:42	W119a MAXI、Swift、RXTE 衛星による Be 型 X線連星パルサー X Persei の約7年の長周期 X線活動の発見 中島基樹(日本大学)	13:54	W130a 明るいブラックホール新星 MAXI J1535-571 の発見と X線スペクトル状態遷移の観測 中平聡志(理化学研究所)
10:54	W120a Ghosh & Lamb 降着トルクモデルの X線連星パルサー X Persei への適用 谷田部史堯(立教大学/理化学研究所)	14:06	W131a 全天 X線監視装置 MAXI/GSC のデータを用いた MAXI J1535-571 の X線短時間パワースペクトル解析 川瀬智史(日本大学)
11:06	W121b 振動数依存型一般相対論的輻射磁気流体シミュレーションコードの開発 高橋博之(国立天文台)	14:18	W132a IRSF1.4m望遠鏡による X線新星 MAXI J1535-571 の近赤外線追観測 森田浩太郎(東京工業大学)
11:06	W122b 高温降着円盤の大域的乱流場中での乱流加速シミュレーション 木村成生(ペンシルベニア州立大学)	14:30	W133a V364 Lib はブラックホール連星か 田邊健茲(岡山理科大学)
11:06	W123b 特殊相対論的 MHD に基づいた磁気回転不安定性の線形解析 荒尾圭唯(東北大学)	14:42	W134a フェルミガンマ線宇宙望遠鏡によるマイクロエーサー Cyg X-3 の観測 林直志(立教大学)
11:18	W124b X線連星のスペクトル状態遷移に関する熱伝導を考慮した2次元数値実験 中村賢仁(九州産業大学)	14:54	W135a デカメータ電波パルスの観測に基づき我が銀河系中心に発見された巨大ブラックホール・バイナリーの存在の検証 大家寛(東北大学)

W2. コンパクト天体

15:06	W136a ブラックホールへ間欠的に落下するガス雲の光度変動と偏光の関係 森山小太郎(京都大学)	3月15日(木) 午前・A会場	09:30	W201a スパースモデリングを用いた新しいEclipse Mapping 手法の開発 若松恭行(京都大学)
15:18	W137a ブラックホール回転エネルギーの四重極フォースフリー磁場による引抜きの数値シミュレーション 小出眞路(熊本大学)		09:42	W202a 矮新星アンドロメダ座 RX の降着円盤における全変動最小化を用いた変動の可視化 大島誠人(兵庫県立大学)
3月17日(土) 午前・A会場			09:54	W203a Novalike 期を経験した ER UMa 型矮新星 RZ LMi の観測的特徴およびスーパーサイクルの変化 小路口直冬(大阪教育大学)
09:30	W138a 超臨界降着するブラックホールと中性子星の輻射スペクトル比較 川島朋尚(国立天文台)		10:06	W204a 種族 II 矮新星で初めて観測されたスーパーアウトバースト 大西隆平(京都大学)
09:42	W139a ブラックホール超臨界降着流に付随するコロナからの X 線放射スペクトル 川中宣太(京都大学)		10:18	W205b OV Boo の 2017 年アウトバースト時における測光観測 福田尚也(岡山理科大学)
09:54	W140a モーメント法に基づく輻射磁気流体コードを用いたブラックホール降着円盤の状態遷移シミュレーション 五十嵐太一(千葉大学)		10:18	W206b FRB 121102 に対する中性子星電波パルスモデル 木坂将大(青山学院大学)
	W141c ブラックホールの超臨界成長・円盤スペクトルの効果 竹尾英俊(京都大学)		10:18	W207b Blue Compact 銀河中の ULX の X 線観測 古市拓巳(大阪大学)
10:06	W142a ブラックホール X 線連星 H 1743-322 の観測データを用いた熱駆動型円盤風モデルの検証 志達めぐみ(理化学研究所)		10:30	W208a 非一様媒質中を伝搬する相対論的衝撃波の Particle-in-cell シミュレーション 富田沙羅(青山学院大学)
10:18	W143a 相対論的輻射流体の自己相似解について: 平行平板流の場合 福江純(大阪教育大学)		10:42	W209a 数値シミュレーションから明らかにする光球面放射の性質 伊藤裕貴(理化学研究所)
10:30	W144a 輻射圧駆動降着円盤風における相対論的輻射輸送 II 竹田奈央(大阪教育大学)		10:54	W210a すざく衛星搭載広帯域全天モニタ WAM による GRB 第一カタログ構築 大森法輔(宮崎大学)
10:42	W145a 磁気回転不安定性の飽和値に対する方位角方向解像度依存性 町田真美(九州大学)		11:06	W211a MAGIC 望遠鏡による short GRB160821B の観測 野田浩司(Institut de Fisica d'Altes Energies)
10:54	W146a マグネター磁気圏のエネルギー蓄積と開いた構造(フレア状態)への遷移 小嶋康史(広島大学)		11:18	W212b 初代星起源ロングガンマ線バースト発生率 衣川智弥(東京大学)

X. 銀河形成

3月15日(木) 午後・A会場		3月15日(木) 午前・J会場	
13:30	W213a 高エネルギーニュートリノと重力波の同時検出可能性 木村成生(ペンシルベニア州立大学)	09:30	X01a 宇宙再電離の光子源種別と水素・ヘリウムの電離分布の関係について 長谷川賢二(名古屋大学)
13:42	W214a GW170817 残光から探る Off-axis GRB 説の検討 浅野勝晃(東京大学)	09:42	X02a 初代銀河の多波長輻射特性と検出可能性 荒田翔平(大阪大学)
		09:54	X03a 21cm線-LAE 相互相関を用いた電離光子脱出率のハロー質量依存性の検証 金氏智也(熊本大学)
		10:06	X04a 赤方偏移 $\sim 6-9$ における銀河紫外光度関数とサイズ-光度関係の同時決定 川俣良太(東京大学)
		10:18	X05a Kinematics in a $z = 7.15$ Lyman Alpha Emitter Revealed by the [OIII] 88 micron and [CII] 158 micron Lines Detected with ALMA 橋本拓也(大阪産業大学/国立天文台)
		10:30	X06a Subaru High- z Exploration of Low-Luminosity Quasars (SHELLQs): Early Evolution of Super Massive Black Holes Probed by Low-Luminosity Quasars at $z \sim 6$ 尾上匡房(総合研究大学院大学)
		10:42	X07a Subaru High- z Exploration of Low-Luminosity Quasars (SHELLQs): Star formation properties of the host galaxies at $z \geq 6$ 泉拓磨(国立天文台)
		10:54	X08a 超巨大ブラックホールへの dusty gas の超臨界降着 豊内大輔(京都大学)
		11:06	X09a 準解析的銀河形成モデルを用いた超大質量ブラックホールへのガス降着タイムスケールに関する研究 白方光(北海道大学)
		11:18	X10b すばる HSC を用いた $z \sim 6-7$ の原始銀河団の探査 樋口諒(東京大学)

11:18	X11b	[CHORUS] $z = 7.0$ の Ly α 光度関数で探る宇宙再電離 伊藤凌平 (東京大学)	14:54	X21b	Cosmic Variance in Angular Correlation Functions and Dark Matter Halo Masses 日下部晴香 (東京大学)
11:18	X12b	ダストガス間の速度差を考慮した巨大ブラックホールへの質量降着 一色翔平 (北海道大学)	14:54	X22b	Subaru/MOIRCS 狭帯域フィルターで探る $z > 3$ ペアクエーサーの周辺環境 竝木茂朗 (総合研究大学院大学)
3月15日 (木) 午後・J会場			15:06	X23b	AKARI-MaNGA: 可視面分光データと赤外線データで求める星形成率の比較 村田一心 (宇宙航空研究開発機構)
13:30	X13a	Census of Ly α , [OIII]5007, Ha, and [CII]158 μ m Line Emission with 1000 LAEs at $z=4.9-7.0$ Revealed with Subaru/HSC 播金優一 (東京大学)	15:06	X24b	HSC-SSP データと Deep Learning で探る極金属欠乏銀河 小島崇史 (東京大学)
13:42	X14a	HSC 広視野撮像観測による $z \sim 4$ Brightest Cluster Galaxy の検出 伊藤慧 (総合研究大学院大学)	15:06	X25b	吸収線でさぐる CGM、IGM のガスの物理状態 清水一紘 (大阪大学)
13:54	X15a	高赤方偏移銀河のダスト温度および質量推定について 井上昭雄 (大阪産業大学)	15:18	X26b	<i>NuSTAR</i> と <i>Gemini</i> /GMOS IFS による近傍 Ly- α blob ($z \sim 0.3$) の観測 川室太希 (国立天文台)
14:06	X16a	ALMA twenty-Six Arcmin ² survey of GOODS-S At One-millimeter (ASAGAO): The survey design and project overview Kotaro Kohno(The University of Tokyo)	X27c	可視光から赤外線における宇宙背景放射の測定: 惑星間塵の再評価 佐野圭 (関西学院大学)	
14:18	X17a	ALMA twenty-Six Arcmin ² survey of GOODS-S At One-millimeter (ASAGAO): X-ray AGN Properties of Millimeter-Selected Galaxies Yoshihiro Ueda(Kyoto University)	X28c	WISE データによる高赤方偏移クエーサーの静止系可視光 SED 分析 加藤奈々子 (愛媛大学)	
14:30	X18a	ALMA twenty-Six Arcmin ² survey of GOODS-S At One-millimeter (ASAGAO): Multi-wavelength properties of ASAGAO continuum sources Yuki Yamaguchi(The University of Tokyo)	X29c	すばる望遠鏡 HSC データを用いた、 $z > 1$ のクエーサー母銀河のスタッキング解析 佐衛田祐弥 (愛媛大学)	
14:42	X19a	ALMA twenty-Six Arcmin ² survey of GOODS-S At One-millimeter (ASAGAO): Clustering of faint sub-millimeter galaxies Yuki Yoshimura(The University of Tokyo)	X30c	すばる望遠鏡 HSC データで探る $z < 1$ におけるクエーサー母銀河の性質 石野亨 (愛媛大学)	
14:54	X20b	チャンドラ衛星深宇宙探査データで探る赤方偏移 3-4 の超大質量ブラックホールの定常的な成長モード 今野雄介 (東北大学)			

3月16日(金) 午前・J会場		3月16日(金) 午後・J会場			
09:30	X31a	ダークマターハローの V_{max} - R_{max} スケーリング則 森正夫(筑波大学)	13:30	X41a	ALMA 1.3mm 帯データを用いたミリ波輝線銀河探査: COSMOS 領域で検出されたミリ波輝線銀河候補天体の物理的性質 山下祐依(東京大学)
09:42	X32a	宇宙論的 N 体シミュレーションを用いた銀河団領域の銀河分布 大木平(カブリIPMU)	13:42	X42a	すばる HSC で探る、銀河団の進化段階と内部の銀河の星形成活動 山元萌黄(総合研究大学院大学)
09:54	X33a	Integral Approach を用いた新しい Godunov SPH 法の開発 藤原隆寛(筑波大学)	13:54	X43a	The Missing Satellite Problem Outside of the Local Group 田中賢幸(国立天文台)
10:06	X34a	アルマ望遠鏡によるSSA22-LAB18の CO($J=4-3$)輝線と3 mm連続波観測 加藤裕太(東京大学/国立天文台)	14:06	X44a	狭輝線1型セイファート銀河核からの高速ガス噴出のすばる補償光学付き面分光観測による測定 川口俊宏(尾道市立大学)
10:18	X35a	原始銀河団における銀河進化と星形成史 矢島秀伸(東北大学)	14:18	X45a	Intrinsic scatter in star formation rate of galaxies with strong H α at $z \sim 2$ 寺尾恭範(東京大学)
10:30	X36a	Subaru/IRCS+AO188 で分解する $z \sim 2$ のフィールド銀河の星形成領域 美濃和陽典(国立天文台)	14:30	X46a	化学進化からみる赤方偏移 1.4 の星形成銀河の星形成とガスの流出入 深川奈桜(総合研究大学院大学)
10:42	X37a	Subaru/IRCS+AO188 で分解する $z \sim 2.5$ の原始銀河団銀河の星形成領域 鈴木智子(国立天文台)	14:42	X47a	星の年齢速度分散関係におけるガス降着史への依存性 熊本淳(東北大学)
10:54	X38a	ALMA 3mm 帯データを用いた無バイアスのミリ波輝線銀河探査 李建鋒(東京大学)	14:54	X48a	赤方偏移 1.52 の銀河団で探る星質量-金属量関係の環境依存性 竝木茂朗(総合研究大学院大学)
11:06	X39a	The Physical Origin of Diffuse Ly α Halos and High Ly α Escape Fractions of LAEs 日下部晴香(東京大学)	15:06	X49a	The most accurate luminosity function of local infrared galaxies based on the AKARI all sky survey Tomotsugu Goto(National Tsing Hua University)
11:18	X40a	高赤方偏移におけるクェーサー放射フィードバックの系統的研究 内山久和(総合研究大学院大学)			

Y. 天文教育・その他

3月14日(水) 午後・G会場		3月15日(木) 午前・G会場	
13:00	Y01a インターネット版日本天文学会「天文学辞典」の制作と活用 縣秀彦(国立天文台)	14:36	Y13b 「長野県は宇宙県」サマー・スタンプラリー・イベントについて 衣笠健三(国立天文台)
13:12	Y02a 教員養成大学における小学校理科天文分野の理解度調査 加藤美帆(大阪教育大学)	14:36	Y14b TOYAKO マンガ・アニメフェスタでの天文イベント:5年の記録と評価 渡辺謙仁(北海道大学)
13:24	Y03a 高校地学・高校物理における天体スペクトル教材の作成 山道千賀子(大阪教育大学)	14:36	Y15b 国立天文台天文データセンターの共同利用新データ解析システム~機能・性能のアップグレードについて~ 田中伸広(国立天文台)
13:36	Y04a 高校1年次「課題探究型授業」における天文教育の実践-色-等級図から星団の年齢を推定する教材を例に- 石田光宏(横浜市立横浜サイエンスフロンティア高等学校)	14:48	Y16b 夜空の明るさの継続的な測定方法および測定結果 柴山万優子(星空公団)
13:48	Y05a 「みんなで作るバタフライダイアグラム」の出前授業への展開 玉澤春史(京都大学)	14:48	Y17b 八重山諸島における夜空のバックグラウンド測定結果 小野間史樹(星空公団)
14:00	Y06a 国友藤兵衛による太陽黒点スケッチのデジタル化により研究や教育への新展開 野澤恵(茨城大学)		Y18c 3度目の正直? 画像データからの流星目視カウント回数。 戸田雅之(日本流星研究会、チームTUSK)
14:12	Y07a 明治20年の皆既日食を撮影したと思われる写真の発見 大越治(国立天文台)	14:48	Y19b 第3代所長・池田徹郎が描いた緯度観測所絵巻 馬場幸栄(一橋大学)
14:24	Y08b 埼玉大学における中・高校生への天文学の研究体験指導(2) 平塚雄一郎(埼玉大学)		
	Y09c 時間変動データを用いた自主学習型解析体験教材の開発I.小惑星探査と視差 西浦慎悟(東京学芸大学)	09:30	Y20a X線天文衛星「ひとみ」(ASTRO-H)の危機対応広報とその結果 矢部あずさ(宇宙航空研究開発機構)
	Y10c 3次元バーチャルリアリティ天文学教材の開発 野田常雄(久留米工業大学)	09:42	Y21a アストロバイオロジーセンターの広報活動 日下部展彦(アストロバイオロジーセンター)
14:24	Y11b 天文学は私たちの文化、最新天文学の普及をめざすワークショップの活動 大西浩次(長野高等専門学校)	09:54	Y22a Mitakaにおける科学的可視化について:その2 加藤恒彦(国立天文台)
14:24	Y12b 光速に近い速度の宇宙船からの星空シミュレーションと天の川の見え方 野本知理(千葉大学)		

2018年2月20日発行

年会実行委員会

委員長	寺田幸功	(埼玉大学)
委員	石川遼子	(国立天文台)
	酒井剛	(電気通信大学)
	鈴木知治	(中部大学)
	鈴木竜二	(国立天文台)
	永井洋	(国立天文台)
	成田憲保	(東京大学)
	諸隈智貴	(東京大学)
	安井千香子	(国立天文台)
	町田真美	(九州大学) 保育室担当

年会開催地理事

花輪知幸 (千葉大学)